# 1998年度
# 講義計画

桃山学院大学

# 講　義　計　画

＜社会福祉学科生対象外＞

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 心理学 | 03<br>04 | 通期<br>通期 | 4単位<br>4単位 | 伊藤正人 |

**［講義概要・学習目標］**

現代の心理学では，実験や観察という客観的方法により，ヒトや動物の行うあらゆる行動を組織的に研究する．心理学の課題は，このような行動へ影響する様々な要因を探索し，行動の原理（法則）を定式化し，我々の日常場面における様々な複雑な行動を説明することである．近代的心理学の出発点は，ドイツの心理学者Wundtがライプチヒ大学に世界で最初の心理学実験室を創設した1879年にさかのぼる．
現在までおよそ120年の現代心理学の歴史は，「こころ」という多義的で曖昧な対象をどの様に捉えるかということに腐心してきた足跡であるといえる．このような先達の努力を振り返ることは，真の意味で心理学の理解を深めることになる．
本講義は，心理学の歴史をたどりながら，現代心理学の課題を理解するための枠組みを提示する．また，教室で心理学の実験を行い，受講者が被験者となることで，心理学のより深い理解を促進させる．

**［講義計画］**

前期では，まず，心理学の歴史を振り返り，現代心理学の課題を提示する．続いて，心理学の各領域の課題を網羅的に眺めてみる．取り上げる領域は，行動・学習，動機づけ・情動，知覚・認知，パーソナリティである．
後期では，心理学の領域のうち，学習の問題に焦点を当て，「学習の原理」が我々の日常場面の様々な行動にどの様に適用出来るのかを考える．また，名作映画のなかに現れる心理学の問題を取り上げて題材としたい．取り上げる映画は，以下のものである．
「時計じかけのオレンジ」(1971年)，「オズの魔法使い」(1939年)，「羊たちの沈黙」(1991年)，「2001年宇宙の旅」(1968年)，「心の旅路」(1942年)
各自レンタルビデオ等で見ておくこと．

**［成績評価の方法］**

成績評価は，講義中に行う数回の小テストと学年末試験による．

**［教科書］**

糸魚川春木編「心理学の基礎」（前期）有斐閣
佐藤方哉　「行動理論への招待」（後期）大修館

**［参考文献］**

心理学事典　平凡社
現代基礎心理学全１２巻　東京大学出版会
行動心理ハンドブック　培風館
心理学双書全１０巻　有斐閣
「メイザーの学習と行動」二瓶社

＜社会福祉学科生対象外＞

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 心理学 | 05<br>06 | 通期<br>通期 | 4単位<br>4単位 | 加納真美 |

**［講義概要・学習目標］**

発達心理学にはじめて触れる人のために、基本的なテーマと考え方を紹介する。ヒトが人となるために、こどもが発達するということの意味を探るために、身近な問題、現実社会、文化・歴史のなかの人間を対象として、生涯を見通す視点から探求していきたい。
講義では、最近の研究結果を吟味しながらも、狭く限定した事象だけに焦点づけるのではなく、受講生が現実生活を反映した身近な問題として考察できるように心がけたい。

**［講義計画］**

〈前期〉
Ⅰ発達心理学の歴史と方法
1．　発達心理学の起源
2．　発達心理学における研究方法
Ⅱ乳児期
3．　出生前、新生児期の発達
4．　乳児期における知覚発達
5．　乳児期における運動発達
6．　ピアジェ理論とその後
Ⅲ幼児期
7．　幼児期における認知の発達

〈後期〉
Ⅲ幼児期
8．　シンボルの出現
9．　象徴的な表象（遊びと描画）
10．　言語と思考
Ⅳ児童期
11．　児童期における認知発達
12．　学校教育の影響
Ⅴ青年期
13．　青年期
14．　成人期
15．　養護性－親となること

**［成績評価の方法］**

前期、後期各１回づつ計２回の定期テスト
小テストまたはレポート

**［教科書］**

ｼﾞｮｰｼﾞ・ﾊﾞﾀｰﾜｰｽ（著）、村井潤一（監訳）『発達心理学の基本を学ぶ』（ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房）

**［参考文献］**

柏木恵子　他（共著）『発達心理学への招待』（ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房）
柏木恵子　（著）『こどもの発達、学習、社会化』（有斐閣選書）
ﾊﾝｽ・ｱｲﾍﾞﾝｸ（著）、田村浩（訳）『マインドウォッチング人間行動学』（新潮選書）
佐藤達哉（著）『知能指数』（講談社現代新書）

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| キリスト教概論 | | 通　期 | 4 単位 | 伊　藤　高　章 |

**[講義概要・学習目標]**

キリスト教思想は「聖書」「伝統」「理性」の３つの柱に支えられている、といわれる。本講義ではまず、教会の伝統がそれぞれの時代に聖書をどのように解釈してきたかを理解することに努め、次いで、現代に生きる私たちは聖書や教会の伝統にどのように向き合ってゆくのかという課題に取り組むこととする。
教会の権威が伝える「正統」なキリスト教を受動的に学ぶのではなく、そのような権威のあり方自体を批判的に検証する。キリスト教を人類が育んできた世界観の一つとしてとらえ、それと向き合う方法論を身につける機会としたい。

**[講義計画]**

以下の内容を含む
イエスの生涯
聖書の成立
「正統主義」聖書解釈と神学
「自然主義」聖書解釈と神学
「ラディカル」聖書解釈と神学

**[成績評価の方法]**

随時提出するブック・レポートと学年末のエッセイによる。提出物は原則として E-mail 経由とする予定なので、留意すること。

**[教科書]**

『聖書 新共同訳』、日本聖書協会 （旧約・新約）
青野太潮（著）『どう読むか、聖書』（朝日選書 490）、朝日新聞社 1994

**[参考文献]**

ジェラール・ベシエール（著）『イエスの生涯』（「知の再発見」双書 44）、創元社 1995
ドロテー・ゼレ（著）『神を考える － 現代神学入門』（21 世紀キリスト教選書 8）、新教出版社 1996

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 聖書研究 | | 通　期 | 4 単位 | 滝　澤　武　人 |

**[講義概要・学習目標]**

文字通り『聖書』を読んで研究することがこの講義の目標である。『聖書』には「旧約聖書」（39巻）と「新約聖書」（27 巻）の合計66巻のさまざまな文書が含まれている。それらは古代ユダヤ民族が残した人類全体の大いなる知的遺産・古典であり、今日においてもなお文学・歴史・思想・宗教など人間の根本問題に対して新鮮な光を投げかけている。
今年度の講義は、前期に「旧約聖書」（特に「創世記」）、そして後期に「新約聖書」（特に「マルコ福音書」）を、「人間の生きざま」に焦点をあてながら読みすすめる予定である。聖書に登場するさまざまな人間の生きざまは、キリスト教やユダヤ教の枠を越えて、現代世界に生きる多くの人々に大きな感動を与えることになるであろう。もちろん、大学という場においては、学問的な研究成果を土台として『聖書』を読むことになる。真面目な学生諸君の主体的な受講を期待している。なお教科書として指定した『聖書』必ず毎時間持参すること。

**[講義計画]**

前期（旧約聖書より）
アダムとエヴァ、アブラハム、ヤコブ、モーセ、ダビデ等
後期（新約聖書より）
主としてイエスについて
およびイエスをめぐる人びとについて

**[成績評価の方法]**

試験（前期・後期）、レポート、感想文、受講姿勢などを総合的に評価する。

**[参考文献]**

その都度指示する。

**[教科書]**

新共同訳『聖書』（日本聖書協会）

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 日本思想史 | | 通　期 | 4 単位 | 松　浦　玲 |

**[講義概要・学習目標]**

１９９９年度のＮＨＫ大河ドラマは「忠臣蔵」と決まった。歌舞伎の「仮名手本忠臣蔵」ではなく実録（元禄忠臣蔵）の系統でドラマを作るのであろう。講義では「仮名手本忠臣蔵」と実録との違いの様々、実話とは違うを「仮名手本忠臣蔵」が創られ愛好された思想史的理由に切りこむところから日本思想史全体に話を広げるという手法を採ってみたい。

**[講義計画]**

歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の通しが視聴覚の資料として揃っているので、それと映画の「元禄忠臣蔵」との違いを見比べることに時間を割く。映像で問題点が呑みこめたところで、それが思想史的にどのような意味を持つのかを日本思想史の概説を交えながら解明する。

**[成績評価の方法]**

受講者が多ければ試験、少なければレポート。

**[教科書]**

使わない。

**[参考文献]**

講義の進行に従い必要なものを挙げていく。

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| アジア思想史 | | 通　期 | 4 単位 | 林　宏　作 |

**[講義概要・学習目標]**

四千年にも及ぶ中国思想史を一年間二十数回の講義では到底述べ尽すことはできない。本年度は上世期、つまり春秋時代の末から後漢の終りまでの約七百数十年間の思想の変遷について概述する。この上世期は前漢の景帝以前と武帝以後との二つの時代に分けて考えることができる。前半期は一般諸子百家の時代と呼び、後半期は経学の時代と呼ぶ。それぞれの特徴および代表的な思想家について述べてみたい。

**[講義計画]**

① 中国思想史の意義ならびにその分期について
② 中国思想の一般的性格
③ 諸子百家の時代
④ 経学の時代

**[成績評価の方法]**

レポートの提出と試験の成績

**[教科書]**

**[参考文献]**

狩野直喜（著）「中国哲学史」（岩波書店）
武内義雄（著）「中国思想史」（岩波書店）
小島祐馬（著）「中国思想史」（創文社）
森三樹三郎（著）「中国思想史」（第三文明社）

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 西洋思想史 | | 通　期 | 4 単位 | 山　川　偉　也 |

［講義概要・学習目標］

年間を通じての大テーマを「自然と反自然」として設定し、古代ギリシアから現代にいたる西洋思想の主要な潮流を総観する。その視点は主として「倫理」思想におかれるが、それがカヴァーする範囲は決して倫理のそれにとどまらず、宇宙論から生物学思想まで幅広い範囲が言及の対象となる。しかし、前期は主として「生命」の問題が、後期は主として「環境」ないし「世界」の問題が中心のトピックスとなる。その意図は、「生命」と「環境」が、今日ますます未来を生きるために重要な課題となってきているからにほかならない。

［成績評価の方法］

講義への参加態度、小テスト、期末試験等を総合して評価する。

［教科書］

ギリシアに関するものとして
山川偉也『古代ギリシアの思想』講談社学術文庫

［講義計画］

以下には年間講義の大略を示す指標として講義計画の概要を記す。細部については、講義の最初に伝えることにしたい。

前期
1．問題群
2．自然と反自然
3．西洋思想における自然と反自然
　1）ギリシア（1）
　2）ギリシア（2）
　3）中世
　4）近世（1）
　5）近世（2）
4．生命
　1）ギリシア（1）
　2）ギリシア（2）
　3）中世
　4）近世（1）
　5）近世（2）

後期
5．環境
　1）ギリシア（1）
　2）ギリシア（2）
　3）中世
　4）近世（1）
　5）近世（2）
　6）現代（1）
　7）現代（2）
6．自然と反自然をめぐる問題群
7．生と死の問題

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 科学思想史 | | 通　期 | 4 単位 | 松永俊男 |

［講義概要・学習目標］

この講義では、科学とキリスト教の関係の歴史的変遷を考察する。

17世紀に成立した西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。科学と宗教の安定した関係は19世紀の前半まで続いたが、19世紀の中頃に科学と宗教の調和が崩れ、科学は宗教から分離していった。またこのころに、科学はキリスト教と闘争して発達したという歴史観が成立し、現在でも一般に広まっている。

講義では、ガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを解明し、それにもかかわらず、なぜ科学と宗教の闘争史観が広まっているのかを考えていきたい。

［成績評価の方法］

受講生は多くないと予想されるので、平常点のみで評価する予定。

［教科書］

［講義計画］

前期
1．コペルニクスはコペルニクス的転回をしていない
2．ガリレオ裁判の謎
3．ニュートンは錬金術師だった
4．科学はキリスト教に奉仕するものだった
5．ヒュームとカントの科学論

後期
1．ノアの洪水神話と地質学
2．『種の起源』は神学書である
3．進化論はキリスト教に取り込まれた
4．科学と宗教の闘争史観の成立
5．ホワイトヘッドの科学論

［参考文献］

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| キリスト教と英米文学 | | 通　期 | 4単位 | 谷　本　泰　三 |

［講義概要・学習目標］

神と悪魔、信仰と不信、希望と絶望、この対極の間でバランスをとろうとする人間を描いた英米文学作品を取り上げる。常に聖書に言及しつつ講義を進める。その狙いは、英米文学史の底流となっているキリスト教思想や反キリスト教思想を検証することにある。講義を通してキリスト教への理解を深めると共に、優れた文学作品が与えてくれる喜び、恐怖、そして感動を体験して欲しい。常に聖書に言及しつつ講義を進める。講義はできるだけ原作品に密着して行うので指示された作品の原典を予習しておくことが必須となる。全講義の詳細なアウトライン（学習ガイド付き）を2回目までに用意しておくのでそれに従って予習するように。

［講義計画］

前期

1-2　Wordsworth "We are Seven"　永遠の命と無垢
　　Cummings "Buffalo Bill's defunct"　死を超えるイエス

3-4　Marvell "To his Coy Mistress"　生への空しい欲望

5　Milton "On His Blindness"　絶望から希望の信仰へ
　　Frost "Stopping by Woods on a Snowy Evening"　現実と超現実の接点

6-11　O'Connor "A Goodman Is Hard to Find" 信じたくても信じられない男

後期

1-4　Melville *Moby-Dick*　不信の男が語るキリストになりそこなった男の話

5-9　Hawthorne "The Minister's Black Veil"　罪の存在としての人間

10　Christmas carols, English and American　信仰の喜び

11　"The Minister's Black Veil"　まとめ

［成績評価の方法］

前期　小論文
後期　期末試験
年間を通じて平素の努力点

［教科書］

谷本泰三（著）『講義アウトライン』

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 西洋文学 | | 通期 | 4単位 | 赤瀬雅子 |

［講義概要・学習目標］

世界の文学のなかで、ひとつの大きな地位を占める西洋文学の特質とは何かを考察するには、やはり古典からみなければならない。一々の古典の概略を見るのみではなく、少しでも原典に触れて考察する。

そのようにして学習する過程から、人類が文学作品に託した理想も、数多くのノン・フィクションの優れた業績が蓄積されているのにも関わらず、何故文学作品が存在するのかということの意味も理解されてくる。

わが国における西洋の文学への関心は、従来、二三の国に限定されがちであったが、その全体を見ることが必要である。さらに重要なことは、各国相互の文学の影響関係の考察である。これを見ることによって、基礎の確固とした文化論の領域にも踏み込むことができよう。

限られた時間の中ではあるが、１９世紀、２０世紀の文学も、概説のみではなく、具体的にそのいくつかのものに触れてみたい。

［講義計画］

先ず、文学とは何か、何故人間にとって必要なものなのかを、西洋の古典を通して具体的に学ぶ。テキストの一節を味読する方法の意義をも考える。次いで何よりも大切な、西欧各国間の文学の相互の影響関係に配慮しながら、どのように、各世紀の特質を持ってきたか、またそれはどこへ向かおうとしているのかを考える。

［成績評価の方法］

前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。

［教科書］

大塚幸男著『ヨーロッパ文学主潮史』（白水社）

［参考文献］

ジョン・メーシィ著　大谷利彦訳『世界文学史物語』（角川文庫）

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 比較文化論 | | 通期 | 4単位 | 柳父章 |

**[講義概要・学習目標]**

社会科学理論をとり入れた比較文化論に重点をおく。又常に日本のことを考えておきながら異文化を見ていく。
私じしんの外国旅行の経験談やビデオなども多くまじえるつもり。

**[講義計画]**

〈前期〉日本文化を外側から見た代表的理論の紹介。
『菊と刀』『甘えの構造』騎馬民族説など。

〈後期〉
現代アジアの動きを比較文化論的に考える。
西洋に始まる文化の展望を考える。

**[成績評価の方法]**

出席はとらない。しかし出席しないとテストは難しくて合格できないだろう。
前期・後期末のテストによる。

**[参考文献]**

毎回いろいろな文献を紹介する。

**[教科書]**

柳父章著『一語の辞典　文化』三省堂　1000円

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 民俗学 | | 通期 | 4単位 | 橋内武 |

**[講義概要・学習目標]**

民俗学は庶民が生活の中で伝承してきた文化を観察・記録する中から成立した学問である。その対象範囲は生活文化万般にわたるが、本講では、前期に人生儀礼・年中行事・俗信、後期に口承文芸（とくに昔話）を取り上げる。これらの文化事象を扱いながら、民俗の見方を手に入れることが学習目標となる。

**[講義計画]**

＜前期＞
1．民俗学とは何か
2．人生儀礼
3．年中行事
4．俗信

＜後期＞
1．口承文芸とな何か
2．昔話の分類（むかし語り、動物昔話、笑話、形式話）
3．昔話研究法（起源・歴史・構造・機能）

**[成績評価の方法]**

原則として試験による。但し、聞き書きまたは観察に基づくレポートを夏休み後に提出するとボーナス点が与えられる。

**[参考文献]**

赤田光男ほか編　『講座　日本の民俗学』　雄山閣

稲田浩二ほか編　『日本昔話通観』　同朋社

**[教科書]**

上野和男ほか編　『新版　民俗調査ハンドブック』　吉川弘文館
稲田浩二・稲田和子編著　『日本昔話百選』　講談社文庫

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 文学概論 | | 通期 | 4単位 | 和栗　了 |

［講義概要・学習目標］

文学とは何かという問いに対してひとつの解答を出すために、作品をこまかく、正確に、かつ想像力豊かに読む方法を講義する。文学とは言語による表現に依存しながらも言語では表現できないものを伝えようとするものである。この決定的な逆説のなかで読む行為をしなければならない読者には、必然的に読む技術が求められる。すぐれた文学作品とは個々の真理を表現するために最良の方法を選択したものだとすれば、表現されていないものを求めて言語表現を詳細に検討することが真理探究への道である。作者の選んだ言語表現を前にして、沈黙の言葉を読み取る方法を伝える。

この授業の目的は、文学作品をどのように読むべきか、その方法を各自で発見することである。

［講義計画］

第１回目の授業で詳しいシラバス等を配布します。

［成績評価の方法］

レポートによる。

［教科書］

第１回目の授業で指示します。

［参考文献］

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 西洋社会史 | | 後期集中 | 4単位 | 種田　明 |

［講義概要・学習目標］

本講義は社会科学の、なかでも社会史を中心に、阿部謹也氏の歴史研究を解説し、現代世界に生きる私たちが抱える諸問題を読み解くための基本認識、あるいはそのためのヒントを探ることを目的としている。

社会科学とは、政治学・経済学・社会学などを基軸として、現実の社会・世界を解剖し分析する学問の総称である。日本においても、また世界においても１９７０年代からさまざまな「社会史」が巷間に溢れ出てきている。社会科学の中の社会史は、総合的な視角から人間と人間集団（地域、民俗、社会…）を「全体」として捉えていくべきものであろう。狭義としての、人間活動の特定領域を対象とする部分史ではなく、「社会（全体）史」として広義に考えてゆきたい。

阿部社会史の方法は、人と人／人とモノとの「関係」（絆・交換・贈与…）をドイツ中世からさぐり、日本との比較を試みるものである。読み解くなかから「生きる」「生活する」ことの意味を考え、学問の厳しさと楽しさを味わってほしい。知的好奇心旺盛な、積極的に質問・疑問を投げかけてくれる受講生の参加を期待している。

［講義計画］

３分の２　ドイツ中世社会史の諸問題を通して、現代につながり現代と交差するものはなにかを考え講義解説していく。
Ｕ・エーコ「薔薇の名前」のＶＴＲをみて、修道院について概観する。

３分の１　ドイツ中世都市フランクフルトについての研究（都市史）の枢要について解説講義する。

［成績評価の方法］

出席・平常（小テスト）　１０＋２０％　欠席５回は受験資格なし
試験（講義最終日）　７０％

［教科書］

阿部謹也『社会史とは何か』筑摩書房、１９８９年
小倉欣一・大澤武男『都市フランクフルトの歴史』中公新書、１９９４年

［参考文献］

講義中に提示する。

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　　当　　者 |
|---|---|---|---|---|
| 東洋史 | 01<br>02 | 通　期<br>通　期 | 4単位<br>4単位 | 原山 煌 |

［講義概要・学習目標］
この講義は、中国世界を中心とする東アジア世界の歴史を考察することを目的とする。この地域の歴史は、「中華」の誇りをいだく漢民族と、その周辺に居住する諸民族（漢民族からは「夷狄」と呼ばれる）という2つのグループの葛藤によって展開されてきた、と見ることが可能である。実際、古来この地域では、次々に現れる北方の騎馬遊牧民族の活動によって、中国世界の実質自体が変貌する事もしばしば見られた現象である。
東アジア世界の歴史を通観するにあたって、この「華」と「夷」という2つの要素を考察の手がかりとして、歴史像を再構成して行く。現在、中華人民共和国は、多民族複合国家として多くの矛盾をはらみながら存在しているといえる。
中国へのしっかりとした認識を持つことは、現代社会においては避けては通れない課題であるが、この講義がその際の一つのヒントになれば幸いである。

［講義計画］
1．講義全体の構想
2．中国世界とは－自然と文化の枠組－
3．多民族複合国家の実像
4．「華夷思想」の形成
5．本講義独自の視点から、時代を追って、中国を中心とする東アジアの歴史を通覧する。

［成績評価の方法］
数回にわたって課す小レポートと、学年末におこなう論述式試験の成績とによって総合的に評価する。

［教科書］
特に指定しないが、「参考文献」欄にあげた文献類を一読してほしい。
講義に関連する項目や地図などについては、適宜プリントを配布する。

［参考文献］
貝塚茂樹『中国の歴史』上・中・下　岩波新書　岩波書店。
宮崎市定『中国史』上・下　岩波全書　岩波書店。
講談社現代新書の中の、新書東洋史シリーズ。

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　　当　　者 |
|---|---|---|---|---|
| アジア文化史 | | 通　期 | 4単位 | 原山 煌 |

［講義概要・学習目標］
気候は酷寒から炎暑まで、生業も遊牧、漁撈、そして農耕。一口にアジアと言っても実に多様な表情がそこにはある。本講義では、アジアの多様な表情を概括的に、しかし確実に把握し、そののちいわば各論として、いま世界を揺るがせている民族問題、そして動物文化史という2つの観点からこの地域の諸問題にアプローチしてみたい。
巨大な多民族複合国家としての中国、ロシア世界における民族問題の比較検討、現在まで続く各ケースの紹介をおこなう。、
遊牧の民の間における動物（家畜とそれ外の動物）、野生の世界と人間の手の加わった地域との対照など、多角的にこの問題に迫ることとする。

［講義計画］
1．アジア世界の概括的理解
2．中国周辺における民族問題－その沿革と現状－
3．動物文化史－野生の世界と人工の世界－
3．家畜とは
4．アジアの動物観念－ヒトにとって動物とはなにか－

［成績評価の方法］
随時課すレポート（参考文献を3冊以上参照したオリジナルな論考に限る。既存文献の丸写しは除籍する）と、各期末の定期試験の成績によって総合的に評価する。

［教科書］
松田壽男『アジアの歴史－東西交渉からみた前近代の世界像』同時代ライブラリー　岩波書店　1992。

［参考文献］
授業中に随時紹介する。

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 西洋文化史 | | 通　期 | 4 単位 | 和　栗　珠　里 |

［講義概要・学習目標］

西洋の伝統的な建築様式とその様式が生み出された時代背景を見ていく。建築物は単なる箱ではなく、時代ごと、社会ごとの文化的特質を映し出す鏡であり、人々の宇宙観さえも体現する「形を持った哲学」である。講義ではまず、建築の価値が特に高まったイタリア・ルネサンスを中心に古代から現代までの様々な建築物のスライドを用いて視覚的に西洋建築に触れてもらい、少しずつその奥にある精神性に迫っていきたい。

［講義計画］

1．近現代建築に見る伝統的建築様式
2．古典主義様式
3．ゴシック様式
4．均衡と不均衡
5．庭園

［成績評価の方法］

主に後期試験による。また、時々ミニ・レポートや感想文も提出してもらい、判断材料に加える。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

N. ペヴスナー著　小林文次・山口廣・竹本碧訳
『新版ヨーロッパ建築序説』（彰国社）

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 人文地理学 | 0 1 | 通　期 | 4単位 | 野尻　亘 |

［講義概要・学習目標］

地理学は「地域」・「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象としている。地理学も当然のことながら固有の理論や法則を持っている。本講では人文地理学の理論や方法論の基礎について、学説史の流れに沿いながら展望することとしたい。

地理学の論文を読む時、地理学の研究を行う時に必要な思想の体系について、わかりやすく解説する。

従って、中学・高校で学習する「地理」の授業の内容とは異なる話となることを予め承知していただきたい。

テキストは欧米で最も定評のある本を用いる。

社会学・経済学・経営学を専攻する学生にとっての専門課程での教育内容と関連した授業を提供することを心がけたい。

［講義計画］

〈前期〉1. 深検記・産物誌から近代地理学へ　地理と地誌の違い
2. 生態学的視点と地域システム　フンボルト・リッター　ラッツエル・ブラーシュ
3. コロロギーから「地域分化」の研究へ　リヒトフォーフェン・マルテ・ハーツホーン
4. 地理学における例外主義批判と計量革命
5. 「地域」と「空間」の違い　流動を分析する視点グラヴィティモデル
6. 行動地理学とタイムジオグラフィー

〈後期〉7. 人文主義地理学　場所や景観の意味づけについて
8. マルクス構造主義と都市研究
9. 立地論　ウェーバー　輸送費・労働費・集積の利益
10. 立地論　レッシュ　市場の均衡と立地条件
11. クリスタラーの中心地研究
12. ハフの商圏モデル
13. 地理学とは何だろうか

［成績評価の方法］

レポートにするか試験にするかは授業の進度と履修状況をみて決定する。

［教科書］

ディッケン・ロイド『立地と空間　上　経済地理の基礎理論』古今書院

［参考文献］

ディッケン・ロイド『地理と空間　下』古今書院
西川　治　　『人文地理学入門』東大出版会

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 人文地理学 | 02 | 通　期 | 4 単位 | 森田　勝 |

**[講義概要・学習目標]**

地理学は様々な社会科学・自然科学との接点が多い特異な学問分野であるが、その中でも人文地理学は最も顕著にそうした傾向が表れると同時に、広範な地理学諸分野の中核的位置に置かれる。そこで、まず人文地理学の位置付けを検討し、最近の諸研究者の研究動向や系譜に触れるとともに、自然地理学との関係を考察する。

次いで具体的な研究事例として、農山漁村と都市について、現地調査に基ずく人文地理学的観点から講義する。農山漁村では、富山県東砺波郡、島根県那賀郡などの調査例を中心に、今も人口流出が続く過疎地の状況を考察する。そして、これらが特異な自然環境・社会環境や歴史性のもたらすものでなく、全国各地に普遍的なものであることを追求したい。都市では、京都・大阪・神戸を中心に、発達史、都市化の状況分析、都市問題などを考察する。その際、折に触れ海外の諸都市の状況にも言及する。

**[講義計画]**

（前期）1～2　人文地理学の学問的位置付け、隣接諸科学との関連性
3～9　農山漁村の地理的定義と一般的状況
10～15　富山県・島根県の事例研究

（後期）16～17　都市の定義、その分類、都市化の一般的状況
18～27　京都・大阪・神戸及び周辺地域の事例研究
28～30　都市問題の整理。総括

**[成績評価の方法]**

年度末の試験結果と出席状況によって評価する。

**[教科書]**

プリント資料を使用する。

**[参考文献]**

その都度紹介する。

＜社会福祉学科生対象外＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 環境問題概論 | 01 | 通　期 | 4 単位 | 巖　圭介 |

**[講義概要・学習目標]**

地球環境は、かつてない速度でその姿を変えている。今や環境の変化は全地球規模で起こっており、それを産み出しているのは人間が生存しようとする行為そのものと言っても過言ではない。医療の発達と栄養の充実が人口の爆発的な増加を招き、増えた人口を支えるため激化した土地からの収奪のため地球の緑が失われていくことで、地球大気の定常性が揺さぶられている。排出され続ける二酸化炭素による地球の温暖化は、はっきりと目に見える影響を示しはじめている。無数の生物を人間が絶滅に追いやっている一方で、支配できたと思っていた多くの害虫や病原菌が人間に逆襲しはじめている。

この授業では、これらの全地球的な環境問題が相互にきわめて密接に関連していることを示し、問題の根源的な解決がいかに難しいかを認識してもらいたい。

**[講義計画]**

講義はおおむね次のようなテーマのもとに、それぞれを互いに関連させながら進行する。

人口爆発
失われる熱帯雨林
砂漠化する大地
飢餓の拡大
拡散する汚染
滅びゆく生物たち
逆襲する害虫、病原菌
温暖化する地球

**[成績評価の方法]**

テストで環境問題相互の関連についての理解を試験するほか、身近なメディアで取り上げられる環境問題についてのレポートを課す。

**[教科書]**

なし

**[参考文献]**

適宜授業中に示す。

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 環境問題概論 | 02 | 通期 | 4単位 | 鈴木善次 |

**[講義概要・学習目標]**

今日、人類を取り巻く環境は悪化の一途をたどっている。オゾン層の破壊、地球温暖化など地球規模の環境問題が顕現化しているからである。

本講義では、人間にとって環境とは何かに始まり、環境問題の本質についての検討を行い、その背景にある今日の科学文明について学生たちとともに考察する。

学生たちには、環境問題の本質、文明のあり方などを評価しうる知識の習得と能力を身につけてもらう。

**[講義計画]**

1. 人間にとっての環境（4コマ）
   - 環境とは何か　・環境の種類
2. 環境問題とは（6コマ）
   - 環境問題の意味　・環境問題の歴史的変遷
3. 今日の環境問題（15コマ）
   - 身近な環境問題　・地球規模の環境問題
4. 環境問題解決の方策（5コマ）
   - 技術的　・政策、経済面　・人々の意識変革

**[成績評価の方法]**

講義中に求める"感想文"と夏休み中に課す"レポート"及び学年末に行う試験の結果を総合的に評価する。

**[教科書]**

とくになし。

**[参考文献]**

鈴木善次著『人間環境教育論』（創元社）

その他、講義中に紹介する。

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 民族問題論 | | 通期 | 4単位 | 小柳伸顕 |

**[講義概要・学習目標]**

1997年、北海道旧土人保護法が廃止され、「アイヌ文化振興法」が成立しました。日本政府がはじめて単一民族国家を正式に否定したことになります。アイヌ民族を民族として認めたことになります。日本社会で民族問題を論じるとき、アイヌ民族抜きにはできません。アイヌ民族問題と取り組むことが、その一歩です。そして、その延長線上に在日外国人、特に朝鮮人（韓国人、朝鮮人）を問題にすることが重要です。また、外国人労働者問題もアイヌ民族や在日朝鮮人抜きに語ることはできません。

**[講義計画]**

前期・日本政府は、明治以来、アイヌ民族をどう扱ってきたか。北海道旧土人保護法の成立過程を検討する。また、「保護法」を貫く排外思想は何に由来するかを合せて考える。そして「アイヌ文化振興法」を支える思想についても検討する。

後期・日本社会の民族問題は、アイヌ民族、琉球処分、台湾の植民地政策、そして朝鮮の植民化を抜きに考えられない。これらを検討するとき、今日の社会で外国人労働者うけている差別の根源にたどりつくことが出来る。

**[成績評価の方法]**

授業への参加とレポート。（※参加は単なる出席を意味しません）。

**[教科書]**

前期　菊池勇夫（著）『アイヌ民族と日本人』朝日新聞社

後期　田中宏（著）『在日外国人』岩波書店

**[参考文献]**

- 山川力（著）『明治期アイヌ民族政策論』未来社
- 花崎皋平（編）『近代化の中のアイヌ差別の構造』明石書店
- 小沢有作（編）『近代民衆の記録・在日朝鮮人』新人物往来社
- 宮島喬（著）『外国人労働者迎え入れの論理』明石書店

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| ラテン語 | | 通　期 | 4 単位 | GonzalesDario |

**[講義概要・学習目標]**

〔学習目標〕　ラテン語の基礎的な知識の習得を目指す。

〔講義概要〕　ヨーロッパの共通語的存在であったラテン語は、二千年余りの歳月により今やフランス語、スペイン 語、イタリア語、ポルトガル語、ルーマニア語、等に変身しているが、西洋文明や文化の歴史の謎を解くための鍵になる言語である。又、英語の辞書を開けば、多くの語彙が、ラテン語から影響していることを知り、母なる言語 の山縁が自然に理解できる

講義は、ラテン語の基礎的な文法の理解と、 現代ヨーロッパの諸言語の共通点を知ることによりラテン語の歴史の概要についても触れる。又、ラテン語にできるだけ親しんでもらう為に、視聴覚教材を活用するつもりである。

授業には、ラテン語の小辞典を携帯する。

**[講義計画]**

〈前期〉1．ラテン語の起源と歴史
　　2．発音と読み方
　　3．基礎的な文法事項

〈後期〉1．ラテン語からの派生語
　　スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語　等
　　2．身近かなラテン語
　　音楽と雑誌
　　3．簡単な日常会話

**[成績評価の方法]**

小テスト、出席日数、レポートの総合評価

**[教科書]**

プリント

**[参考文献]**

松本悦治（著）「ラテン語入門」（駿河台出版社）

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| インドネシア語 | | 通　期 | 4 単位 | 山　本　浩　子 |

**[講義概要・学習目標]**

インドネシア語は、マレー語を母体とするインドネシア共和国の公用語である。インドネシアの言語状況を手短に述べておくと、他民族国家であるインドネシアは、各々の地域の民族がジャワ語やバリ語などの地方語を用いる一方で、マスコミ、政治、教育などの場面において各民族の共通語としてのインドネシア語を用いている。

本授業では、まず初級インドネシア語の運用能力を身につけることを目標とする。簡単な会話文をもとに、最小限の文法事項を説明していく。前半では、学習の初期段階として、暗記が重要であると心掛けてほしい。

語学学習においては、実際に口に出してみること、コミュニケーションすることが重要である。だが、それを実践する機会を継続的に持つことが最も難しいことである。授業終了後も、各自の必要に応じて独習できる基盤ができることを目標にする。

**[講義計画]**

〈前期〉発音、あいさつ・自己紹介の表現、人称代名詞、疑問詞の使い方、数量の表現、時の表現、基本的な前置詞と接続詞の用法、助動詞、関係代名詞ｙａｎｇ、接頭辞・接尾辞について（インドネシア語の造語法）、辞書の引き方

〈後期〉命令文、様々な接頭辞と接尾辞の用法、インドネシア語の態、小辞、表現を豊かにするための言いまわし、簡単な作文、読解、聞き取りの練習

**[成績評価の方法]**

前期末と後期末に実施する筆記試験と授業参加度による。

**[教科書]**

柴田紀男（著）『エクスプレスインドネシア語』（白水社）

**[参考文献]**

辞書については授業中に案内する。

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 異文化間コミュニケーション論 | | 通　期 | 4 単位 | 遠　山　淳 |

## [講義概要・学習目標]

異なる出自文化を持つ者とのコミュニケーションや、異文化同士がコミュニケーションを行う場合に発生する諸問題について講じる。

講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーション、などについて講義し、普遍文化と個別文化との関係、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。

情報は文化を生成し、文化は人間に対して規範的に係わる。異文化間コミュニケーションの最大の問題は自文化なのである。さて諸君は自文化を越えられるだろうか。

## [講義計画]

〈前期〉
1 はじめに：異文化間コミュニケーション論とは
2 「文化」とは何か（所相として）：静態と動態
3 自文化中心主義と文化相対主義。相対主義批判。
4 「文化」とは何か：再考。定義。情報代謝理論。
5 コミュニケーションの志向性と型。
6 コミュニケーションの動因と文化型。
7 文化フィルターとしてのコミュニケーション型
8 言語と文化：サピア・ウォーフの仮説を中心に
9 コミュニケーション能力と言語能力
10 非言語コミュニケーション(1)
11 非言語コミュニケーション(2)
12 コミュニケーションの文化型：片立文化と両立文化

〈後期〉
13 日本的コミュニケーション(1)：両立型特性
14 日本的コミュニケーション(2)：宗教史より
15 日本的コミュニケーション(3)：宗教的影響
16 日本的コミュニケーション(4)：時空感覚
17 日本的コミュニケーション(5)：土着と外来
18 日本的コミュニケーション(6)：否定と肯定
19 日本的コミュニケーション(7)：「理解」法の比較
20 英米人のコミュニケーション(1)：国民性の形成
21 英米人のコミュニケーション(2)：特殊性と特性
22 異文化間コミュニケーション(1)：循環の法則
23 異文化間コミュニケーション(2)：異なる価値観
24 まとめ：定量的方法と定性的方法：特徴と限界
25 予備日、または試験

## [成績評価の方法]

前期末試験、学年末試験および出席点に代えて不定期に小試験を行う。

## [教科書]

久米・遠山　他（編・著）『異文化コミュニケーション・ハンドブック』（有斐閣、1997）

## [参考文献]

橋本満弘・石井　敏（編）遠山　淳　他（共著）『日本人のコミュニケーション』（桐原書店、1993）
吉田　暁（編）・石井　敏・岡部朗一・久米昭元（共著）『異文化コミュニケーション（改訂版）』（有斐閣、1996）
祖父江孝男（著）『文化人類学入門　増補改定版』（中公新書、1992）
他は、授業中に発表する。

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 言語学概論 | | 通　期 | 4 単位 | 山　本　雅　代 |

## [講義概要・学習目標]

「言語」と言えば、学生諸君の多くは国語や英語などの学習を思い起こすのではないかと思うが、「言語学」とは、そうした個別言語の能力習得・伸長を図ることを目的とするものではない。「言語学」とは『言語とは何か』とか『言語はどのように働くか』という根元的な問いに答えようとする学問である」（エイチソン, 1995: 2-3）。このとてつもない問いに挑戦するための第一歩を踏み出さんとする学生諸君のために開講されているのが本講義である。なお本講義は概論のため、特定の領域を深く掘り下げるのではなく、言語についての全般的な基礎知識の習得を目標とするものである。

## [講義計画]

【前期】言語そのものの分析（単位や構造）を中心とした講義

《テーマ》
言語学とは何か／言語の特性／動物と人間言語／音声学／音韻論／形態論／単語／統語論／意味論／

【後期】言語とその周辺領域の関連を中心とした講義

《テーマ》
語用論／言語の使用／言語と社会／言語と心・脳／言語とコンピュータ／言語の変化／言語の比較／手話／言語相対性・言語普遍性／

## [成績評価の方法]

1) 出席、レポート等の提出を最低条件とし、2) 質問、意見の表明等授業への積極的参加の姿勢と、3) 定期試験の結果をもとに総合的に判断する

## [教科書]

ジーン・エイチソン著（田中春美ほか訳）
『入門言語学 (改訂新版)』（金星堂）

## [参考文献]

風間喜代三ほか著『言語学』(東京大学出版会)
小泉保著『日本語教師のための言語学入門』（大修館書店）
中島平三・外池滋生編著『言語学への招待』(大修館書店)

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 応用言語学 | | 通　期 | 4 単位 | 橋　内　武 |

**[講義概要・学習目標]**

応用言語学とは何かについて考えたあと、
1．言語問題の学（言語障害、識字、言語交替など）
2．外国語教育学（教授法、教材・教具論、評価論）
3．学際的言語学（言語学と隣接科学）
4．言語と専門職の研究（通訳・翻訳、言語治療など）
の4つの立場から応用言語学の課題と方法について明らかにしたい。

この科目を履修する過程で次第に身近か言語コミュニケーションの問題に関心が高まり、ことばについて多角的に考える習慣が形成されることが学習目的である。

**[講義計画]**

＜前期＞
第1週～第2週：　序論・応用言語学とは何か
第3週～第7週：　言語問題の学
第4週～第13週：　外国語教育学

＜後期＞
第1週～第7週：　学際的言語学
第8週～第12週：　ことばと専門職
第13週　　：　まとめと復習

**[成績評価の方法]**

レポートと年度末試験の結果を勘案して判定する。

**[教科書]**

なし

**[参考文献]**

Richards, Jack et al. Dictinary of Language Teaching & Applied Linguistics. Longman.

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 言語文化特講（対照言語学） | | 通　期 | 4 単位 | 梅　田　礼　子 |

**[講義概要・学習目標]**

音声・音韻、文法、語彙などさまざまな観点からいくつかの言語を比較検討し、言語の本質を考える。
講義は教科書を中心に、受講者からの意見・疑問・発見などを取り上げ、さらに深く考える場にしてゆきたい。積極的な参加を期待します。

**[講義計画]**

前期 1．対照言語学とは
2．音声・音韻
3．文法
後期 4．表現
5．語彙
6．言語行動

**[成績評価の方法]**

授業への参加、カードによる加点、定期試験(前期・後期各1回)

**[教科書]**

『対照言語学』石綿敏雄・高田誠　桜楓社

**[参考文献]**

『日英語対照による英語学概論』西光義弘 編集　窪薗・影山ほか
1997くろしお出版　など

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 日本事情研究Ⅱ | | 通　期 | 4 単位 | 岡　村　清　人 |

［講義概要・学習目標］

日本が、近年飛躍的な発展を遂げている背景に、優れた工業材料の開発がいかに深いかかわりを持っているかについて講義を行う。第二次世界大戦後５０年、日本の産業発展に大いに寄与している鉄鋼材料、そして、今日のセラミックス材料や複合材料などの先進材料が、今後の日本および世界の発展にいかに関連しつつあるかについて説明する。さらにこのような発展をもたらしている根源についても追求する。

次に、発展に従って、生活が豊かになるにつれて、リスクを負う状況にもある。例えば環境破壊などである。この二者のバランスに関しても講義を行う。

［講義計画］

〈前期〉

工業材料の発展の柱になっている鉄鋼材料の具体的な説明を行い、それらの明治、大正、昭和、平成における発展プロセス、社会への寄与、そして２１世紀における創造的発展の可能性について、日本の教育体制などと関連させて講義を行う。

〈後期〉

今日の先進材料と呼ばれている半導体材料、セラミックス材料、複合材料などが、工業材料として日本で大いに発展している事情について講義を行う。そして、これらの工業材料の専心的開発が日本の将来の発展にいかなる影響を与えるかについて予測する。またそれらに伴うリスクについても説明する。

［成績評価の方法］

レポート、出席など総合的に考慮して評価する。

［教科書］

講義資料を適宜配布する。

［参考文献］

大石 嘉一郎（編）『日本産業革命の研究　上・下』（東京大学出版会）
堂丸 昌男・山本 良一（編）久松 敬弘　他共著　『未来社会と材料工学』（東京大学出版会）
H。W。ルイス（著）　宮永 一郎（訳）『科学技術のリスク』（昭和堂）

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 日本語学概論 | | 通　期 | 4 単位 | 有　川　康　二 |

［講義概要・学習目標］

次の日本語学習者の質問に答えてほしい。「『は』に濁点がつくと『ば』。でも、『な』に濁点の『な゛』が発音できないのは何故？」「大（おお）＋型（かた）＝おおがた（連濁あり。×おおかた）なのに、何故、大（おお）＋風（かぜ）＝おおかぜ（連濁なし。×おおがぜ）なのか。」「『私は田中です』と『私が田中です』はどこがどう違うのか。」

答えられなくても心配御無用。（簡単に解答されてはこのような問題を飯の種にしている人達（＝教師）が困ります。）日本人なら誰でも日本語を「使う」ことはできるが、その複雑な仕組みについて原理的に「説明する」ことは出来ない。（脳味噌は誰でも使えるが、脳味噌の中で何が起こっているのか説明できないのと同じ。）日本語学を次の三つの視点から概論する。（１）言語学の視点：ヒトという生物種に発生したコトバとしての日本語の普遍的特徴の探求。（２）教育学の視点：日本語の非母語者が効果的に日本語を習得する為の実用的な説明。（３）哲学の視点：「自分とは何者か」という問を考えるための手がかり。

［講義計画］

＜前期＞
重要事項の解説と練習問題

＜後期＞
重要事項の解説と練習問題

［成績評価の方法］

出席・筆記試験

［教科書］

上山あゆみ『はじめての人の言語学－ことばの世界へ』（くろしお出版）

［参考文献］

野田尚史『はじめての人の日本語文法』（くろしお出版）

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 日本語文法・文体論 | | 通期 | 4単位 | 有川康二 |

**[講義概要・学習目標]**

外国語学習に「おかしい」文はつきものである。（＊：おかしな文。）
a＊困ったらいつでも私へ来なさい。
b.＊私が京都で撮ったの写真
c.＊私の父は山田先生を知ります。
d.＊先生、私の推薦状はもうお書きになったんですか。（丁寧に催促したい時）
何故おかしいのか。だが、彼らには彼らなりの論理がある。(a)は"come to me"と言うから。(b)は中国語では「我在京都照像的照片」で、「的」という日本語の「の」にあたるものがあるから。(c)は"know"＝「知る」だから。(d)は尊敬語を使用しているから問題ないはず。教科書として使用する『日本語の文法』には日本語のきまりと仕組みを探るための百題の問が用意してある。それらの重要問題を解いていく。

**[講義計画]**

＜前期＞
重要事項解説と問題の解答
＜後期＞
重要事項解説と問題の解答

**[成績評価の方法]**

出席・筆記試験

**[教科書]**

寺村秀夫（著）『日本語の文法（上）』（国立国語研究所（日本語教育指導参考書4））
寺村秀夫（著）『日本語の文法（下）』（国立国語研究所（日本語教育指導参考書5））

**[参考文献]**

寺村秀夫（著）『日本語のシンタクスと意味 I』（くろしお出版）
寺村秀夫（著）『日本語のシンタクスと意味 II』（くろしお出版）
寺村秀夫（著）『日本語のシンタクスと意味 III』（くろしお出版）

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 語彙・意味論 | | 前期 | 2単位 | 藤原健 |

**[講義概要・学習目標]**

言葉による表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめあげることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達の手段として、それを文や文章、談話の形にまとめあげているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同様に重要な要素である。
この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分析し、普段使っている日本語の語彙についていろいろな面から考えてみたい。

**[講義計画]**

1. 単語と語彙
   1) 単語の性質
   2) 単語の形と意味
   3) 単語の種類
2. 語構成
   1) 語の構成成分
   2) 語構成（単語の分類）
3. 造語法
   1) 造語法
   2) 造語にともなう音韻変化
4. 語彙の体系
   1) 意味の関係（上下，類義，対義）
   2) 意味の変化
   3) 比喩
   4) オノマトペ

**[成績評価の方法]**

定期試験（半期科目であるので、前期1回）により評価する。
詳しくは、授業初回に説明する。

**[教科書]**

森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』（おうふう（桜楓社））

**[参考文献]**

浜野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック⑤ 語彙』（国際交流基金/凡人社）

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 文字・表記論 | | 後期 | 2単位 | 藤原 健 |

［講義概要・学習目標］

言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体にした文字言語とに大別できる。この講義では、これからの時代の媒体となっている文字について、日本語の場合を扱う。

日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。外国人の日本語学習者にとって日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。

1年次に「論理作文」を履修した人も多いと思うが、日本語を「表記する」という点から見つめ直すいい機会になればと思う。学部・専攻に関係なく、日本語に興味・関心のある学生の受講を歓迎する。

［講義計画］

1. 日本語の表記法と基準
   1) 漢字の表記法（「常用漢字表」）
   2) ひらがなの表記法（「改定現代仮名遣い」）
   3) かたかなの表記法（「外来語の表記」）
   4) 送りがなのつけかた
   5) ローマ字の種類と表記法
2. 文字に関する知識
   1) 漢字
      （六書，部首，画数，字形等）
   2) かな

［成績評価の方法］

定期試験（半期科目であるので、後期1回）により評価する。
詳しくは、授業初回に説明する。

［参考文献］

国立国語研究所（編）『日本語教育指導参考書 14 文字・表記の教育 II』（大蔵省印刷局）

［教科書］

富山陰行・真田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック②新・表記』（国際交流基金/凡人社）

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 教育社会学 | | 通期 | 4単位 | 宮崎和夫 |

［講義概要・学習目標］

教育社会学は、教育と社会の関係を社会学の方法で研究する科学である。教育の問題は、今や学校のみならず家庭や地域社会など広範囲で大きな社会問題になっていることが多い。

本講義では、現代社会の特質からくる教育の諸問題を積極的に取り扱う。たとえば、学歴社会問題、受験戦争問題、家庭や地域社会の教育力の低下問題等と非行や逸脱行為、少年犯罪との関連、いじめや不登校問題、若者文化と流行、マンガ文化やＴＶ文化の教育への影響問題などいろいろな教育問題と学校組織の構造的問題点との関連を具体的多面的に考察する。

その中で、教育と現代社会の特質との関連を分析する社会学的視点を論究するとともに、現代教育が抱えている諸問題を実証科学的に分析し考察する。

［講義計画］

〈前期〉

1．現代社会の特質と教育
2．情報化社会と教育
3．国際化社会と教育
4．少子高齢社会と教育
5．学歴社会と教育
6．管理社会と教育
7．学習社会と生涯教育

〈後期〉

8．人権問題と教育
9．学力保障と教育機会
10．ジェンダーと教育
11．社会階層と教育
12．学校の官僚制と教師集団
13．社会変動と教育改革

［成績評価の方法］

学年末試験の成績と年間数回提出してもらうレポートなどを総合して評価する。

［参考文献］

1．宮崎和夫（編著）「生徒指導の理論と実践」（学文社 ）
2．宮崎和夫（編著）「現代教育原理」（創森社）
3．麻生　誠他著「学校の社会学」（学文社）

上記の他、講義の進捗に合わせて、授業の中で随時紹介する。

［教科書］

宮崎和夫（編著）「社会と教育への視点」（創森社）

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 教育哲学 | | 後　期 | 2 単位 | 徳　永　正　直 |

［講義概要・学習目標］

カントが掲げた哲学の４つの根本問題との関連で、次のような主題をオムニバス方式によって解説する。認識論との関連では、言語の人間学的意義をボルノーに従って明らかにする。また、人間学との関連では、アリス・ミラーとフランクルの精神療法の立場の相違を中心に、人間が生きるということの意味を考える。教育理解は人間の捉え方によって決定的に規定されるが、逆に教育実践に携わることで人間観の修正を迫られることがある。人間と教育の密接な関わりを、フリットナーを手掛かりに解説する。最後に、子どもの正しい発達を保障するための「教育の自律」の問題をノール教育学を手掛かりに解説する。

［講義計画］

§１．教育哲学とは何か
§２．言語の人間学的意義
①言語の本質と機能　②言語への懐疑と言語の教育に際しての注意点　③言語の発達　④言語によるコミュニケーションの諸形式
§３．生きるということの意味をめぐって
①アリス・ミラーの問題提起　②フランクルの実存分析　③生命と生といのち
§４．人間把握と教育理解の相即性　　フリットナー教育学の立場
§５．教育の自律という問題
①ノールの立場と教育関係論　②教育の自律の歴史的展開をたどる　③その制度的保障を巡って

［成績評価の方法］

レポート作品と出席状況などを総合的に判断して評価する。

［参考文献］

そのつど指示する。

［教科書］

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 教育史 | | 前　期 | 2単位 | 小　股　憲　明 |

［講義概要・学習目標］
日本教育史について、近現代を中心に概説する。

［講義計画］
1．近世の士庶教育～藩校・寺子屋・郷学・私塾～
2．欧米における近代公教育制度の成立
3．明治期における義務教育制度の創始・確立・発展
4．国民教育～教科書・教育勅語・御真影～
5．中等教育～中学校・高等女学校・実業学校～
6．高等教育～帝国大学・大学・専門学校～
7．戦後教育改革
8．戦後教育の展開とその現在

［成績評価の方法］
出席およびレポート。

［参考文献］
講義の中で適宜指示する。

［教科書］
用いない。講義は、プリントおよび講義ノートを中心にして進める。

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 教育行政学 | | 後　期 | 2 単位 | 佐　野　正　彦 |

**［講義概要・学習目標］**

教育行政とは、国（文部省等）または地方公共団体（教育委員会等）が、教育目的を実現するために、学校等の施設を設置し、人々を組織し、それらを管理・運営し、もしくは援助し、そのことにより学校等における教育活動の発展をはかる行政作用の総称をいう。

ところで、わが国の憲法や教育基本法は、教育現場の自主的・主体的な活動を確保すべく、教育行政に対して、教育内容に権力的に関与することなく、教育の外的な条件整備を任務とすることを期待している。しかし、現実の教育行政は、日の丸・君が代の強制、検定を通じての教科書の内容の不当な歪曲など、教育現場や教師の自由や創造性を奪い、教育荒廃をもたらす大きな要因の一つになっている。本講義では、憲法や教育基本法を基本的な視点にして、今日の教育行政の問題点を明らかにしつつ、本来的な教育行政のあり方について論じることにする。

**［講義計画］**

教育行政の基本理念、組織及び運営
（1）教育行政の歴史
（2）教育行政の基本原理
（3）教師の服務と研修
（4）学校の管理・運営と教育行政
（5）文部省と教育委員会

**［成績評価の方法］**

試験の成績と平常成績とで総合評価する

**［参考文献］**

『教育小六法』（学陽書房、三省堂、第一法規など、どこの出版社でもよい）

**［教科書］**

＜前期＞教育法規、＜後期＞教育行政学を通して受講する者は、次の書籍を備えておくことが望ましい。
細井克彦・田中耕二郎編　『子どもを生かす教育行政』（ミネルヴァ書房）

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 教育法規 | | 前　期 | 2 単位 | 佐　野　正　彦 |

**［講義概要・学習目標］**

今日の学校では、受験競争、いじめ、自殺、非行、登校拒否など、教育荒廃を象徴する様々な問題が拡大・深化している。学校は、競争と選別の機構と化し、子どもへの管理を強めるなかで、自由と創造性を失い、もはやそこに教育は存在せず、教師は教師たることを放棄しているとまでいわれる現実がある。

このように現代の学校は、子どもの権利を守る場所とはほど遠い実感がある。学校は何の権限があって、他人の子どもの頭を丸刈りにさせたり、体罰を加えたりするのであろうか。学校にまかり通る理不尽なきまりや管理。それらによって拘束されているのは子どもたちだけではない。子ども、父母、教師のそれぞれの人権・権利を擁護する立場から、学校での子どもたちの学習や生活を見直してみたい。その見直しの視座を、憲法、教育基本法、子どもの権利条約に置き、今日の状況と学校再生の道筋について、教育法学的な分析を加える。

**［講義計画］**

子どもの人権と学校教育
（1）校則と子どもの人権
（2）教師の懲戒権と子どもの人権　－懲戒と体罰－
（3）教師の教育評価権と子どもの人権
（4）「子どもの権利条約」が提起するもの

**［成績評価の方法］**

試験の成績と平常成績とで総合評価する

**［参考文献］**

『教育小六法』（学陽書房、三省堂、第一法規など、どこの出版社でもよい）

**［教科書］**

＜前期＞教育法規、＜後期＞教育行政学を通して受講する者は、次の書籍を備えておくことが望ましい。
細井克彦・田中耕二郎編　『子どもを生かす教育行政』（ミネルヴァ書房）

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　　当　　者 |
|---|---|---|---|---|
| 教育工学 | | 前　期 | 2単位 | 冷　水　啓　子 |

［講義概要・学習目標］

情報化社会の進展に伴って，人々を取りまく社会・教育的環境が急速に変化しつつある。家庭や学校，地域社会の中にワードプロセッサ，パーソナルコンピュータなどの電子メディアがどんどん導入され，日常的にそれらを利用する機会も増えた。さらにコンピュータ・ネットワークを利用することによって，情報の受信・収集のみならず，情報発信の機会やコミュニケーション活動の可能性自体が拡大された。そのため，教育の現場では，日々の教授・学習活動のなかで，このような新しいメディアをどのように組み合わせて活用すればよいか（教育におけるマルチメディア利用）が新たな重要課題となっている。

今日の「教育工学」では，授業の設計，実施，評価，改善という一連の過程に深く関わる諸条件――教育目標・教育内容，教育におけるマルチメディア，教育方法，教育環境，学習者の行動や意欲，教授者の行動や理念など――の相互関係を明らかにし，それらを統御しながら教育効果の促進をめざすための実践的な研究が行われている。そこで本講では，主に電子メディア（コンピュータ・ソフトウェアー，コンピュータ・ネットワークなど）を活用した教授・学習について，講義とコンピュータ実習による理論的かつ実践的な検討を行う。

講義内容に関連する資料や補助教材は，ＯＨＣ，ＶＴＲ，印刷物などにより適宜提供する。履修生の主体的・積極的な受講を期待している。

［講義計画］

Ⅰ．はじめに
Ⅱ．コンピュータの発展と教育利用
　　１．教育へのコンピュータ利用：ＣＡＩ，ＣＭＩ
　　２．コンピュータリテラシー，情報活用能力
　　３．コンピュータ利用と健康問題：テクノストレス
Ⅲ．教育におけるコンピュータネットワーク
　　１．電子メールの利用
　　２．インターネットの利用
Ⅳ．データベースの利用
Ⅴ．教育測定・評価におけるコンピュータ利用
　　１．表計算ソフト（Excel）の利用
　　２．統計ソフト（SPSS）の利用
Ⅵ．資料やテキストの作成と提示：Power Pointの利用
Ⅶ．修了レポート（作品）の作成

注）この計画内容については講義・実習の進捗状況によって変更することがある。

［成績評価の方法］

出席や実習への参加を重視する。学期末に修了レポート（作品）課題を課す。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

［教科書］

［参考文献］

赤堀侃司（著）　『学校教育とコンピュータ』　（NHKﾌﾞｯｸｽ）
子安増生・山田冨美雄（編）『ニューメディア時代の子どもたち』（有斐閣選書）
水越敏行・佐伯 胖（編）　『変わるメディアと教育のありかた』（ミネルヴァ書房）
桃山学院大学計算機センター（編）『桃山学院大学計算機センター ユーザーズガイド』
永田元康・橋本孝之・八田武志・島田昌敏（共著）『情報教育概論』　（コロナ社）
高島秀之（編）　『マルチメディア教育』　（有斐閣選書）

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　　当　　者 |
|---|---|---|---|---|
| 教育評価論 | | 後　期 | ２単位 | 島　田　勝　正 |

［講義概要・学習目標］

指導と評価は表裏一体の関係にある。教育を科学として発展させるためには日々の指導を実証的に評価する事が必要である。また、日々の指導を別の観点、すなわち評価の観点から見直してみる事には意義がある。

本講義が取り扱う内容は主として授業分析（授業観察）、良いテストの条件、教育統計である。授業では「課題中心」の受講者参加型のワークショップを展開する。

配布資料は英語で書かれている事が場合があるのである程度の英語力が必要となる。

本講義は教員を志望する者を対象とする「教職関連科目」であるが、教育・体育系の「共通自由科目」を兼ねている。

［講義計画］

1.ガイダンス
2.文化と評価
3.通知表
4.相対評価、絶対評価、到達度評価
5.授業分析(1)　授業評価項目検討
6.授業分析(2)　授業評価票作成
7.授業案
8.授業評価(1)
9.授業評価(2)
10.テスト(1)妥当性、信頼性
11.テスト(2)多肢選択型テスト
12.テスト(3)項目分析
13.教育統計
14.項目反応理論

［成績評価の方法］

得点配分は以下の通り。（1）課題提出（授業参加）１回１０点×５回=５０点（2）レポート５０点　＊５回以上の欠席は無評価とする

［教科書］

必要に応じてハンドアウトを配布する

［参考文献］

梶田叡一著『教育評価』有斐閣
池田　央著『テストの科学』日本文化科学社

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 図書館学 | | 前期 | 2単位 | 吉田　憲一 |

［講義概要・学習目標］

昨年6月，長年の懸案であった学校図書館法が改正された。様々な問題を残しながらの改正であったが，それとともに、文部省あるいは地方自治体から学校図書館の充実施策が出されている。しかしそれは，真に生涯学習時代における学校図書館の役割が再認識、再評価されてでてきたものとは思われない。この科目では，前半部分では、学校教育における学校図書館の意義と役割を考える中から，このことを明確にしていきたい。

後半部分では、学校教育活動を支える学校図書館の活性化のために、司書教諭の果たすべき役割を考え、自主性、自発性に基づいた創造的な学習を進めていくに大切な図書館利用の計画や指導方法，読書指導等を講義する。とりわけ小学校における学校図書館の役割の重要性を学んでいただきたい。

なお，ビデオを利用して，学校図書館のいきいきとした活動の実際を学ぶ。

［講義計画］

1．学校図書館の意義と役割
2．学校図書館関連法規・基準
3．学校図書館法の改正について
4．学校図書館の歴史
5．学校図書館の施設と管理
6．資料の収集と選択
7．学校図書館の利用法
8．資料の利用と指導
　(1) 利用指導の内容
　(2) 利用指導の評価
9．読書指導
　(1) 読書興味の発達
　(2) 読書指導

［成績評価の方法］

中間期のレポートおよび最終講義時のテスト結果で評価する。

［教科書］

塩見昇著　『学校図書館論』　(教育史料出版会)
(新編図書館学教育資料集成9)

［参考文献］

全国学校図書館協議会編刊　『学校図書館関係法規基準集』

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 現代健康論 | | 通　期 | 4単位 | ＜前期＞　高橋ひとみ<br>＜後期＞　永谷　峯男 |

［講義概要・学習目標］

「豊かな時代」の中で、いま、私たちが求めているものは「健康な生活」であろう。健康は私たちの幸福の源であり、良い人生を過ごすための基本的条件である。そこで、すべての年齢層の人が健康を保ち増進するためには、年齢に応じた体力づくりに加えて、余暇を含むライフスタイル、心の健康づくり、生活環境の整備など、身体的・精神的・社会的なすべての分野にわたっての健康に対する配慮と自己責任が必要とされている。

これらの見地から、本授業においては、健康な日常生活を営むための生活環境要因を広く網羅するとともに、健康管理のための実践的な立場から、健康づくりに関して、運動と栄養と休養、余暇活動のほかサポートする因子としての住環境・衣服など基礎的な分野から応用領域に至る知見について学習する。

［講義計画］

前期
1. 健康の概念
2. 健康管理システム
3. 健康の意識
4. ライフサイエンス
5. 心身の発育と発達
6. 年代と体育・スポーツ

後期
1. 身体のしくみと働き
2. 生活習慣と健康
3. 健康生活と環境
4. 余暇時代-ストレス時代とスポーツ
5. 体力づくり

［成績評価の方法］

前期試験・後期試験および小テストなどにより成績評価を行う。

［教科書］

前期：「健康科学概論」　緒方正名編著　朝倉書店
後期：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

［参考文献］

後期：「健康哲学のすすめ」　石川　中他編　有斐閣選書
「スポーツと健康·体力」　平原豊弘他著　晃洋書房

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| スポーツ文化論 | | 通　期 | 4単位 | 松　浦　道　夫 |

［講義概要・学習目標］

まず、現代社会の特徴と体育・スポーツの発展、関係を概観します。そして背景の思想・精神・文化を知り、スポーツとの関連を考察します。いいかえれば、スポーツ文化論を通して、集団としての人間、社会を理解することをねらっています。

［講義計画］

<前期>
1．現代の体育・スポーツ
2．近代イギリススポーツと社交の精神
3．イギリスのギャンブル精神とスポーツ

<後期>
4．アメリカスポーツとメンバーチェンヂの思想
5．近代日本のスポーツと勝敗感
6．国際化と日本的スポーツの変化

［成績評価の方法］

適宜エッセイを課し、学年末テストと合わせて評価します。ただし、受講生が多い場合は変更することもあります。

［参考文献］

授業の進行に合わせて知らせます。

［教科書］

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| スポーツ科学 | | 通　期 | 4単位 | <前期> 今　西　俊　次<br><後期> 高　成　廈（ヨ ソン ハ） |

［講義概要・学習目標］

スポーツ科学は人間そのものをあつかう総合科学であり、近年この分野の研究には著しいものがある。その成果は、たんに「強く・速く・高く」という一握りのトップアストリートだけのものではない。健常者にとっては勿論のこと障害者や中・高年齢者にとっても有効である。

本講義では、スポーツが体力に与える影響と体力がスポーツに与える影響を考察し、合理的なトレーニングの方法について理解を深める。また、健康・体力の維持・向上を願うすべての人々にとってスポーツの新たな可能性を再発見してもらいたい。

［講義計画］

前期、第1回目の授業で説明します。

後期、第1回目の授業で説明します。

［成績評価の方法］

レポートと前･後期テストを合せ、総合的に評価する。

［参考文献］

宮下充正（著）『トレーニングの科学』（講談社）

［教科書］

資料をプリント配布する。

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| スポーツ社会学 | | 通　　期 | ４単位 | 長谷川　修一郎 |

［講義概要・学習目標］

昨年、２００２年ワールドカップは日韓共同開催で行うことが決定し、日本チームが史上初めてのワールドカップ出場を決定した。今年３月には長野オリンピックとパラリンピック冬季競技会が開催された。いまやオリンピックやワールドカップに代表されるチャンピオンシップ・スポーツからジョギング・健康マラソンやママさんバレーボールとりわけ身体障害者スポーツまでスポーツがかつてなく普及し、発展していることは多くの社会的事実として確認されよう。一方、スポーツの高度化、大衆化の発展は必ずしもプラスの機能だけでなくマイナスの機能も生じさせている。そこで本講義では、スポーツがもつ功罪を点検しながらスポーツと社会の関係を共に考えたい。

［講義計画］

<前期>

1.序論
2.スポーツの発展と問題点
3.社会的事実としてのスポーツ
4.スポーツの社会的構造と機能
5.スポーツと文化
6.スポーツと組織
7.日本体育協会と日本身体障害者スポーツ協会
8.スポーツ競技会
9.スポーツと政治
１０スポーツと経済

<後期>

1.スポーツと政治
2.スポーツと経済
3.国際比較から見た日本人のスポーツ観
4.日本的スポーツ組織の歴史的・社会的性格
5.生涯スポーツ、コミュニティー・スポーツ
6.日本のスポーツ政策
7.スポーツとコマーシャリズム
8.競技スポーツの社会的問題点
9.スポーツの大衆化をめぐる問題

［成績評価の方法］

講義中の小テスト、レポートと期末テストで評価する。

［参考文献］

森川貞夫・佐伯聰夫編著　スポーツ社会学講義　大修館書店

［教科書］

必要に応じ資料を提供する。

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 教育・心理学特講<br>（不登校といじめ問題） | | 後期 | ２単位 | 林　　陸雄 |

［講義概要・学習目標］

今日の学校現場では、不登校、いじめが日常化し、ますます深刻さをましている。教師も親もお手上げの状態といってもいい。その中で、学校の保健室を中心とした地道な取り組みが積み上げられてきた。その足取りを描いたテキストを中心に、不登校・いじめ・非行について、その本質を問い直し、子ども達とどのように向かい合うのか、その視角と姿勢について検討する。

テキストを事前に熟読し、討議・役割演技などを用いて、実際的な学習を深める予定なので、主体的な受講を期待している。

［講義計画］

1. 思春期を考える視角
2. 不登校を考える視角
3. 不登校生徒にかかわる視角
4. 不登校生徒と生きる視角
5. いじめを考える視角
6. いじめに向き合う視角
7. いじめと生きる視角
8. 事例検討の実際
9. 非行と生きる視角
10. 孤独と生きる視角
11. からだと生きる視角
12. 思春期を考える視角、再び

［成績評価の方法］

出席回数、授業内の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。
但し、2/3以上の出席がなければ評価しない。

［参考文献］

授業内で、適宜紹介する。

［教科書］

佐治　守夫　監修
『　思春期の心理臨床　』　　日本評論社　刊

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 図書館通論 | | 前　期 | 2 単位 | 志保田　務 |

［講義概要・学習目標］

現代社会における図書館の全体像及び意義について概説する。特にコミュニケーション、情報の伝達にかかわる図書館の役割、生涯学習ステージにおけるその働きについて述べる。図書館・情報学についても触れる。

［講義計画］

1　図書館とは：定義
2　図書館と社会
3　図書館に関する法規
4　図書館の歴史
5　図書館の種類：館種
6　公共図書館
7　大学図書館・学校図書館
8　専門図書館・国立図書館
9　図書館業務
10　図書館経営
11　図書館協力
12　図書館・情報のネットワーク

［成績評価の方法］

テスト

［参考文献］

前島重方，志保田務（共編）「図書館概論」（樹村房）

［教科書］

藤野幸雄（ほか著）「図書館情報学入門」（有斐閣）

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 図書館資料論 | | 後　期 | 2 単位 | 志保田　務 |

［講義概要・学習目標］

図書館を構成する要素のうち、最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。特に資料の電子化に注目し、図書館資料の中にしめるこれの位置について考究する。

［講義計画］

1．図書館資料論：「図書」から「資料」へ
2．図書館資料の種類
3．資料の生産と流通
4．資料の蓄積と提供
5．資料の検索　ＩＲ
6．資料の選択
7．情報化：「資料」から「情報」へ
8．電子化資料（on desk）
9．情報電子化（on-line））
10．インターネット
11．著作権、公貸権

［成績評価の方法］

テスト

［参考文献］

前島重方，志保田務（共編）「図書館概論」（樹村房）

［教科書］

藤野幸雄（ほか著）「図書館情報学入門」（有斐閣）

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 図書及び図書館の歴史 | | 前　　期 | 2 単位 | 志保田　　務 |

**［講義概要・学習目標］**

基本は、図書と図書館の上に流れた歴史を追う。ただし観点を重視し、それぞれの時代の図書館が誰のものであったか、何のために備えられたかに常に留意する。特に近代図書館の成立を、図書館の大衆化及び生涯学習施設化の実現として掘り下げる。

**［講義計画］**

1．この講義で求める図書館の意義と時代区分
2．古い時代の図書館　1　アジア・アフリカ
3．古い時代の図書館　2　エジプト
4．古い時代の図書館　3　ギリシャ、アレキサンドリア
5．ヨーロッパ中世の図書館
6．ヨーロッパ近代の図書館
7．商品としての「図書」の脱皮
8．アメリカの図書館
9．アジア・アフリカの図書館
10．日本の図書館　1
11．日本の図書館　2
12．まとめ

**［成績評価の方法］**

テスト　90％
出席　　10％

**［教科書］**

岡田温（著）『図書館』（丸善）

**［参考文献］**

寺田光孝・藤野幸雄（共著）『図書館の歴史』（日外アソシエーツ）
森耕一（著）『図書館の話』（至誠堂）
石井敦（編）『図書及び図書館史』（雄山閣）

＜９７生対象＞

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 児童サービス論 | | 前　　期 | 2 単位 | 清　水　昭　治 |

**［講義概要・学習目標］**

公共図書館では、普通、いわゆる一般用（大人用）と子供用とに部屋又はコーナーを分けて本を配架しています。後者は、大体、中学生までを対象にし、絵本から、幼児、幼稚園児、小学生、中学生までの中位い子供用の本を並べています。そして、公共図書館の全貸出冊数の相当部分をこれらの子供の本が占めています。この講義では、主に、公共図書館の児童サービスを中心として、学校図書館、家庭や地域の文庫活動なども対象にし、又大人と児童との中間地帯のいわゆるヤングアダルトと呼ばれる中学生や高校生などの図書館とのかかわりも考えます。多彩に出版されている子供向の本を実際に授業の中で楽しみながら講義をすすめます。生涯教育が叫ばれる中で、図書館の役割は、今後、ますます増大します。その時、図書館利用が習慣化されることは、大きな意味を持ちます。その習慣化の第一歩が児童サービスです。その第一歩の大切さを学びます。

**［講義計画］**

講義と共に、具体的に、実際に、子供の本を紹介しながら、又、「読みきかせ」などを通じて、子供の本の楽しさを伝えたい。

又、スライドなどを利用しながら、具体的な子供の図書館の姿を学びたい。

**［成績評価の方法］**

レポート、又は、学年末試験に加えて、出席状況や平常成績とで、総合評価したい。

**［教科書］**

**［参考文献］**

参考文献は、講義の中でお知らせしますが、まずは、文献よりも、実際の児童図書館を体験しておいてください。はじめは、少し、躊躇しますが、一度、体験すれば大人用の図書館と同じように利用できることと思います。

＜９７生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 専門資料論 | | 前　期 | ２単位 | 松永俊男 |

［講義概要・学習目標］
人文科学、社会科学、自然科学の各分野の学問としての特徴、および各分野の文献の特徴と種類について解説する。

［講義計画］
１．学術文献とはなにか
２．分野の特徴と学術文献
３．学術雑誌の特徴
４．学術文献の歴史
５．雑誌 nature について
６．学術における不正
７．百科辞典について-1-
８．百科辞典について-2-
９．百科辞典について-3-
１０．人文科学・社会科学の二次資料
１１．科学技術の二次資料
１２．テスト

［成績評価の方法］
平常点と最終テストを総合して評価する。

［参考文献］

［教科書］

＜９７生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 生　涯　学　習　概　論 | ０１ | 前期 | ２単位 | 伊　藤　正　純 |

［講義概要・学習目標］
いま日本では「生涯学習」の大合唱が起こっている。技術革新の激しい現代社会において、日々知識を獲得する学習活動はあらゆる成人――どんなに忙しい人々を含めて――にとって必要である。ところが、そのためには、あらゆる成人がある程度ゆとりをもって自由に学習できる環境（＝条件）整備が不可欠である。日本の生涯学習の現状をみると、その条件整備の点ではまだまだ遅れていると言わざるを得ない。特に、生涯学習の先進国であるスウェーデンと比較すると、日本の生涯学習政策の問題点が明瞭に見えてくる。それでも、意欲的な人々は 時間とお金を工面しながら、日本でも生涯学習活動に参加している。
生涯学習概論は図書館法改訂に伴い司書課程の必修科目となったが、社会教育施設論における生涯学習論および日本の生涯学習政策の解説を超えた視点から、「生涯学習とは何か」を具体的に考える講義を行ってみたい。受講生の皆さんにも一緒に考えてもらいたい。

［講義計画］
1．生涯学習とは何か。
　ユネスコの生涯教育論、ＯＥＣＤのリカレント教育論
2．日本の「生涯学習」の特異性
　生涯学習振興法と「生涯学習」の実情
　高等教育における生涯学習の推進状況
　地方自治体
3．生涯学習の国・スウェーデンでの実験
　コミューン成人教育、国民高等学校
　労働経験大学入学制度、学生ローン
　教育休暇制度、成人教育奨学金制度
　学習サークル
4．社会教育施設
　図書館、博物館、公民館など

［成績評価の方法］資格取得科目であるので、出席重視・授業中の感想文重視で評価する。定期試験を実施するかどうかは未定。なお、２０分を超えた遅刻は認めない（入室禁止措置をとる）。

［参考文献］
1．黒沢惟昭編『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社
2．黒沢惟昭編『生涯学習時代の社会教育』明石書店
3．文部省編『平成８年度　我が国の文教政策』
4．日本労働研究機構『大学院修士課程における社会人教育』
5．桃山学院教育研究所『和泉市民の生涯学習に関する意識調査報告書』

［教科書］なし

＜９７生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 生涯学習概論 | ０２ | 後　期 | 2単位 | 小　股　憲　明 |

［講義概要・学習目標］
生涯学習および社会教育の本質についての理解を図り、臨時教育審議会以後の生涯学習社会への移行をめざす教育諸改革の動向を把握することを目標に、講義計画に従って概説する。

［講義計画］
1．生涯学習の意義
2．生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育
3．統計資料に見るわが国の教育水準～生涯学習の社会的基盤～
4．生涯学習社会への移行～教育改革の方向～
5．生涯学習関連施策の動向(1)～全国的に見て～
6．生涯学習関連施策の動向(2)～大阪府・堺市の場合～
7．社会教育の意義と歴史
8．社会教育の内容・方法・形態
9．社会教育施設と指導者
１０．学習情報の提供と学習相談
１１．生涯学習・社会教育関連法規と行政の役割

［成績評価の方法］
出席およびレポート。

［教科書］
用いない。講義はプリントを中心にして進める。

［参考文献］
講義の中で適宜指示する。

＜９７生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 図書館サービス論 | | 後　期 | ２単位 | 志保田　務 |

［講義概要・学習目標］
「図書館サービス」は広義では図書館が提供する全サービスを指すが、この講義では、狭義の図書館サービスにあたる、直接サービスについて、特に公共図書館に重心をおいて進める。特に、1960年代以降の日本の図書館の発展をこの直接サービスの進展を軸に追究したい。

［講義計画］
1．図書館サービスの意義
2．図書館サービスを支える法・基準
3．図書館サービスの発展　1　戦前
4．図書館サービスの発展　2　１９５０年代
5．図書館サービスの発展　3　１９６０年代
6．図書館サービスの発展　4　１９７０年代
7．図書館サービスの発展　5　１９８０年代以降
8．全域サービス
9．障害者サービス
10．図書館と自由
11．公貸権と著作権
12．図書館サービスの方向：法改正問題など

［成績評価の方法］
テスト　９０％
出席　１０％

［教科書］
前島重方（ほか著）『図書館活動』改訂（樹村房）

［参考文献］
塩見昇（著）『図書館活動論』（教育史料出版会）
日本図書館協会編『図書館はいま』（日本図書館協会）

《インテグレーション科目》

＜９７生対象＞

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当チーフ |
|---|---|---|---|---|
| 資料特論 | | 後期 | ２単位 | 松永俊男 |

［講義概要・学習目標］

行政資料、郷土資料、および視聴覚資料に注目し、それぞれの特徴、収集、利用等について解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。

［講義計画］

１．はじめに
２．行政資料について(1)
３．行政資料について(2)
４．情報公開制度について(1)
５．情報公開制度について(2)
６．ＣＤ－ＲＯＭとインターネットの実習
７．視聴覚資料について(1)
８．視聴覚資料について(2)
９．郷土資料について(1)
１０．郷土資料について(2)
１１．まとめ

［成績評価の方法］

講師それぞれの評価（テストまたはレポート）を総合して評価する。

［参考文献］

［教科書］

《インテグレーション科目》

＜９７生対象＞

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当チーフ |
|---|---|---|---|---|
| 図書館特論 | | 後　期 | ２単位 | 志保田　務 |

［講義概要・学習目標］

現代の図書館は、情報化、コンピュータ化の流れの中にいる。こうした中でデータベースを扱うことは、もはや図書館サービスにおける必須のこととなっている。また、図書館利用者においても、データベースの検索や、CD-ROMの扱いができること時代に入っており、そうした知識を身につけるよう、この授業では学ぶ。インテグレーション科目で、講師には、情報の科学と技術協会の中心メンバーを招聘する。

計算機センターのコンピュータ演習室を常用する。コンピュータの扱いについては授業で必要にしたがって展開できるようにする。できるだけキーボード操作、入力の練習をしておいてほしい。

なお、前期開講の「情報検索演習　クラス１」と連携している面がある。ただし原則において両者は別科目であり、この科目だけで独立一貫の授業体系を形成している。

［講義計画］

1. イントロダクション：インテグレーション計画
2. 情報利用の時代
3. データベース検索の初歩
4. 科学技術情報の検索
5. 化学・医学情報の検索
6. 特許等の情報の検索
7. データベース検索の第二ステップ
8. 検索機器とネットワーク
9. データベースの実際
10. インターネットの英語
11. まとめ
12. テスト

［成績評価の方法］

テスト　７０％
出席　　１０％
課題　　２０％

［参考文献］

情報の科学と技術協会（編）『情報検索の基礎』第２版（情報の科学と技術協会）

丸山昭二郎（ほか編）『情報アクセスのすべて』増補改訂版（日本図書館協会）

［教科書］

情報の科学と技術協会（編）『情報検索管理入門』第４版（情報の科学と技術協会）
ただし、そのつどのプリントが加わる。

＜９７生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 博　物　館　概　論 | | 後期 | ２単位 | 種田　明 |

［講義概要・学習目標］

博物館とは何か、その社会的基盤や法的地位、教育的機能などを総合的に講義する。（毎回ＶＴＲを使用する。）日本の博物館の開館数は、１９９７年も約３００館近くに上り、規模やテーマの各種各様の博物館が誕生している。これらの博物館が、研究者のみならず多くの人々に親しまれ活用されるためには、博物館に関する基礎的知識の習得が望まれよう。

博物館法に基づく「学芸員」を志す諸君は、博物館の歴史と現状・博物館における人とのふれ合い（博物館法にいうリクリエーション、社会教育法にいう生涯学習）・博物館のコンセプトや法律などを十分にわきまえ、博物館について楽しみながら学んでほしい。

なお、本学では博物館概論と博物館学各論（４）の２科目６単位を履修し、合格しなければ「博物館実習（３）」の登録はできない。（自由科目としての受講者は、最初に申し出てください。）

［講義計画］

各回４５分「放送大学」のＶＴＲをみて、テーマに関連した講義・解説を行う。新聞・雑誌などからの記事のコピーも交え、博物館の本質について討議できれば、問題の所在が明らかになるであろう。

［成績評価の方法］

博物館見学レポート　２回　（３０％）
試験＜最終講義日＞　（６０％）
出席　（１０％）：欠席５回は受験資格なし

［教科書］

大塚知義『改訂版　博物館学Ｉ』放送大学教育振興会、１９９４年

［参考文献］

講義中に提示する。

＜９７生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 博物館学各論 | | 通　期 | ４単位 | 水　口　薫 |

［講義概要・学習目標］

近年ミュージアム・マネージメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性と相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネージメント感覚が求められている。

本講義では「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報論」を内容とする。

博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、博物館資料の収集・保管、展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育普及活動および情報の意義と活用方法についての理解を図る。

［講義計画］

（前期）

「博物館経営論」

1　博物館の機能、組織、施設の基本的な考え方
2　ミュージアム・マネージメント、教育普及活動

「博物館資料論」

1　博物館資料の概念、収集、整理、保管、記録化
2　博物館資料の保存、展示（常設展示、企画展示）

（後期）

3　資料調査、研究活動の意義と方法、基礎知識

「博物館情報論」

1　博物館における情報の意義、提供について
2　教育普及、情報、インターネットの活用方法

［成績評価の方法］

試験とレポート、出席点にて総合評価。前・後期とも欠席（公欠等事務書類ある場合を除く）６回の者は名簿抹消。

［教科書］

大堀　哲・小林達雄・端　信行・諸岡博熊（編）
『ミュージアム・マネージメント　博物館運営の方法と実践』
（東京堂出版　1996年）
加藤有次・椎名仙卓（編）『博物館ハンドブック』
（雄山閣　1993年（３版））

［参考文献］

適時、プリントを配布。
その他、講義のときに提示する。

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 東洋美術史 | | 通期 | 4単位 | 林　宏作 |

[講義概要・学習目標]

美術の範疇はいたって広く、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。

この講義は、古代から近代までの中国絵画を概観し、各時代の特質および有名な画家を紹介する。また本年度は、特に「揚州八怪」の絵画をとり上げ、清朝絵画史における揚州八怪の位置やその先駆をなす石涛・八大山人等との関係、さらに四王呉惲との比較を論じてみたい。

[講義計画]

① 中国絵画の流れ
② 揚州八怪について
③ 個性的な明遺民画家—石涛・八大山人
④ 正統派の画家—四王呉惲

[成績評価の方法]

授業出席のあり方・授業への参加態度・レポート・期末テスト等による総合評価

[教科書]

[参考文献]

王耀庭(著)「中国絵画のみかた」(二玄社)
マイケル・サリバン(著)・新藤武弘(訳)「中国美術史」(新潮社)
兪剣華(著)「中国絵画史」(商務印書館)

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 産業考古学 | | 通期 | 4単位 | 並川宏彦 |

[講義概要・学習目標]

産業考古学は1955年に英国で生まれた新しい学問である。それは産業史や技術史、社会・経済史、地方史など周辺学問との学際的研究で展開され、文献研究だけではなく、産業遺跡・遺物そのものの調査・研究を重視し、それの文化財としての保存・記録を進める。

わが国が欧米の近代技術の導入を通じて産業の近代化にふみ出してから一世紀余りが経ち、この間の産業技術の発達はめざましいものがある。この過程で、当然のことながら生産品の変遷が進み、消えていった品々も多い。

歴史的、技術的、文化的価値のある工場や生産設備、機械器具、製品、図面、文書類など、それぞれの時代を担い、産業技術の発展に貢献した貴重な遺産である産業資料の収集・保存は重要な課題である。

産業考古学がどのような学問か、調査研究の対象と方法、産業遺跡・遺産保存の基準、日本の産業技術の発達などとともに、産業博物館について講義する。

[講義計画]

産業考古学の定義、調査研究の対象と方法、日本の産業考古学、遺跡や遺物の体系的保存、体系的保存のための基準、日本の産業技術の発達、産業考古学と保存運動、企業と産業遺跡・遺物の保存、文化財としての産業遺跡・遺物、日本の産業遺跡・遺物(風水車と水力発電所などエネルギー生産の跡、、鉄や銅など金属材料生産の跡など)、産業考古学と産業技術史博物館(繊維機械および自動車とその生産技術)、そして近畿の産業博物館(近畿地域の主な産業博物館を取り上げ、その産業や技術の歴史の概要と博物館の展示内容や特徴)を述べる。

[成績評価の方法]

レポートの提出を課す。期末に試験をする。
試験の点数とレポートの評価で成績をつける。

[教科書]

[参考文献]

産業記念物調査研究会　「近畿の産業博物館」　阿吽社

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 科学社会学 | | 通期 | 4単位 | 後藤邦夫 |

**[講義概要・学習目標]**

狭義の科学社会学はさまざまな科学者集団を対象とする社会学的研究であり、いわゆる知識社会学の系譜に属する。しかし、この授業では科学を文化の一形態と見なし、その多様な社会的側面を扱う広義の科学社会学を講義する。また、講義者は「科学」と「技術」を一体のものとしてとらえる立場である。したがって、講義内容を「科学技術の社会的研究」としてもよい。かつて、科学技術は少数の研究者の個人的活動によって担われていたが、ある時期から多様な社会システムの活動の所産となった。このことが明確に認識されるようになった１９３０年代に、広義・狭義ともに科学社会学的研究がスタートした。しかし、その本格的展開は、第二次大戦後、とくに１９７０年代以降である。核問題、環境問題等を通じて、科学技術の社会的意味が問われ、「科学的真理」や「技術進歩」に対しても根本的な検討が必要になったからである。それらの現代的トピックも出来るかぎり扱う。

**[講義計画]**

前期：科学社会学、すなわち科学技術の社会的研究の系譜と方法
１９３０年代のマートン、バナール、マルクーゼ、から今日の社会的構成主義にいたる研究の流れを追いながら、主な論点と方法を講義する。

後期：現代の科学技術の科学社会学的研究
主に、第二次大戦後のさまざまな話題を扱う。

**[成績評価の方法]**

1）講義した内容についての試験を行う。
2）レポートを課し、その内容をも若干考慮する。

**[参考文献]**

受講者に対するシラバスのなかで示す。

**[教科書]**

使用しない。必要に応じてプリント等を配付する。

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 産業技術論 | | 通期 | 4単位 | 並川宏彦 |

**[講義概要・学習目標]**

技術は人間の活動＝生産的労働をより効果的に行うために工夫され、つくり出されたものである。それはつくり出した物、道具や機械などに物化しているが、道具や機械そのものではなく、それらによって測られる一つの概念であり、本来きわめて経済的社会的なものである。
人間のみが道具をつくり、それを使って色々な物を生産する。人間の歴史は道具の歴史、物づくりの歴史である。人間の存在が技術を考えていく基盤である。
科学・技術時代といわれる現在の経済社会をよく理解するためには、それを支え、規定する重要な要因の一つである技術の役割を正確に把握する必要がある。
この講義では、人類の起源と技術、生産過程と労働過程、技術の概念、科学の発展、科学と技術の関係、道具から機械へ、機械の概念、工場制度の成立、機械体系からオートメーションへ、戦後日本の技術革新、そして技術発達と現代社会との関わりについて述べる。

**[講義計画]**

第１章．人間の起源と技術（人間の存在が技術の基盤　人間の属性　物づくりが人間をつくるなど）、第２章．生産過程・労働過程（生産の自然的・社会的側面　労働過程の３要素）、第３章．技術の概念（学説の紹介　技術の定義）、第４章．科学の発展（科学とは　科学と労働　科学のはじまり　科学と技術　理学と工学の発展など）、第５章．技術の発展法則（技術の社会依存性と自律性　発展の根本要因など）、第６章．技術と生産様式（原始時代の技術から資本主義制発生期の技術まで）、第７章．機械と大工業（機械制大工業勃興期の技術　機械の概念　機械体系）、第８章．オートメーション（機械化の発展段階　オートメーションの特質、前提、技術史的意義）、第９章．戦後日本経済と技術革新（技術革新の展開過程　技術貿易　日本技術の特質）、第10章．生産技術と管理技術（近代的管理職能の発展　管理技術の特質など）を講義する。

**[成績評価の方法]**

レポートの提出を課す。期末に試験をする。
試験の点数とレポートの評価で成績をつける。

**[参考文献]**

最初の授業の日に、各章ごとの参考文献を示す。

**[教科書]**

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 日本文化史 | 01<br>02 | 通　期<br>通　期 | 4単位<br>4単位 | 横　井　　清 |

**[講義概要・学習目標]**

日本の文化について歴史的に通観する。総じては、日本文化史上の重要事象について、使用教科書の記述によりながら、初歩的・基礎的な「知識」を身に付けるようにいざないたい。その上で、本学が教育理念の根本に置く「国際的な視野」に立って日本文化を見直してゆくための手掛かりを体得させたい。

**[講義計画]**

前期においては原始・古代～中世の文化史を追い、

後期には近世から近代を対象として講義する。

**[成績評価の方法]**

通年筆記試験による。

**[教科書]**

家永三郎著『日本文化史【第二版】』(岩波新書)

**[参考文献]**

必要に応じて授業の中で紹介する。

# 「基礎演習」クラス・研究テーマ一覧


| クラス | 担当者 | 研究テーマ | 頁 |
|---|---|---|---|
| 01 | 安藤　洋美 | 社会統計入門 | 136 |
| 02 | 矢根　眞二 | 経済学の考え方と7つ道具 | 136 |
| 03 | 上野　勝男 | 日本の農業・食料問題 | 137 |
| 04 | 梅本　哲世 | 都市生活の経済学 | 137 |
| 05 | 桂　昭政 | 経済学理解へのソフトランディングをめざして | 138 |
| 06 | 木村　二郎 | 日本経済入門 | 138 |
| 07 | 熊谷　次郎 | 現代経済史 | 139 |
| 08・09 | 芝村　篤樹 | 問題意識を培う | 139 |
| 10 | 吉見　研次 | 現代の株式会社 | 140 |
| 11・12 | 鈴木　健 | 世界と日本の政治・経済現象について考える | 140 |
| 13 | 滝田　和夫 | 投資の考え方 | 141 |
| 14 | 竹歳　一紀 | 経済学の基礎と経済問題 | 141 |
| 15 | 竹原　憲雄 | 戦後日本経済の流れ | 142 |
| 16 | 津田　和夫 | わが国の金融・財政の基礎 | 142 |
| 17 | 津田　直則 | 企業の研究 | 143 |
| 18 | 野田　知彦 | 経済学の基礎 | 143 |
| 19 | 濵田　博男 | 日本の企業の発展の歴史・現状・問題点 | 144 |
| 20 | 蕗谷　硯児 | 日本経済の現状について | 144 |
| 21・22 | 藤岡　純一 | 環境問題について | 145 |
| 23 | 前田　治郎 | 今、何が問題なのか？ | 145 |
| 24 | 三邉　信夫 | 経済学の黎明と発展 | 146 |
| 25 | モグベル　ザファル | 貿易と経済について | 146 |
| 26 | 望月　和彦 | 「世の中は左様然らば御尤もさうでござるかしかと存ぜぬ」をぶっ飛ばす | 147 |

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基　礎　演　習 | ０１ | 通期 | ４単位 | 安藤　洋美 |

［講義概要・学習目標］
社会が複雑になって行くと、統計に接する機会が多くなって行く。毎日の新聞紙上にも、教科書にも、たくさんの統計が出ている。ここでいう統計とは、集団のある傾向や特徴を数量的に観察し、表現した一種の情報である。したがって、統計は集団のもつ規則性や性格を雄弁に物語っている筈であるが、それを読み取るにはやはりそれなりの訓練が必要である。ここでは統計の取り方や読み方を学んで行くことにしたい。

［講義計画］
＜前期＞前期は『日本経済図説』（岩波新書）をもとに学習。

＜後期＞後期は『世界経済図説』（岩波新書）をもとに学習。

［成績評価の方法］
出席・研究・発表・レポートを主に評価する。

［教科書］
『日本経済図説』（岩波新書）
宮崎　勇（著）　『世界経済図説』（岩波新書）

［参考文献］

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | ０２ | 通期 | ４単位 | 矢根　真二 |

［演習概要・学習目標］
多人数の講義では片方向の知識の吸収力が問われるのに対し，少人数の演習ではたんに受動的に知識を吸収するだけでなく，むしろ自らの意見や質問を発して他人の情報収集過程に貢献する能力の養成こそ主目標となる。それゆえ，日頃から多様な問題に関心を抱き，自らの意見をまとめる習慣を身につけておき，それを演習の場で積極的に発言していくという姿勢が重要である。こうした能力は，専門演習に進むための必要条件であるだけでなく，卒業後のいかなる集団的な意思決定過程の中でも重視されるものである。
そこで，本演習の第１目標は，一般的なトピックス関するディベイト・ゲームを通じて，提案・質疑・反論・応答といった一連のプレゼンテーション技術を高めることである。そのための基礎技術として，書物の読み方・使い方からパソコンの基本操作等を学習する。第２の目標は，将来の専門演習では専門書の輪読スタイルが主流になるので，新聞や雑誌，経済学の入門レベルの文献を題材とした個人報告の技術を高めることである。専門的な文献に進むためには，**基礎理論Ａ**（Ｂではない）などで学習する経済学の基本的な考え方になじむと共に，簡単な数式のモデル等にもアレルギーを感じなくなるようにしておくことが大切である。いずれにせよ，過去にとらわれず，新しい自分を築いていくようなチャレンジ精神を持って取り組んで頂きたい。

［演習計画］
通常の演習は，（１）一般的なトピックスに関するチーム対抗のディベイト・ゲーム，（２）初歩的な経済関連のトピックスに関する個人報告，（３）こうした演習を円滑に進めるための基礎技術の習得，という３つの内容から成る。マンネリを防ぐためにも，日程さえ合えば，最初の２つについては他の演習と合同の機会も作ってみたい。
しかし最初のうちは，参加者のバックグラウンドの違いを配慮して，もっぱら(3)の基礎技術の修得を中心に行う。具体的には以下のような基礎技術を考えているが，実施時期や詳細は参加者と相談の上決定する予定である。
(0)目に見える技術と見えない技術
(1)インターネットと情報収集
(2)ワープロ・表計算ソフトの基本操作
(3)書物の読み方・使い方
(4)レジュメの書き方・報告の仕方
(5)レポートの書き方とワープロの効用
(6)経済学の基本的な考え方とモノを見る視点
(7)経済数学とモデリングの基礎とグラフィックス入力
(8)データ・統計・実証分析の威力と表計算ソフト等の利用

［成績評価の方法］
演習計画(1)(2)については報告や質疑への貢献度，(3)についてはクイズ等の提出物を総合して評価

［教科書］
・岩田規久男『経済学を学ぶ』ちくま親書
・丸谷才一『私の選んだ文庫ベスト３』ハヤカワ文庫JA

［参考文献］
『えんしゅう・まにゅある』等のプリントを配布し，参考文献もその都度指示する予定だが，自分で調べる能力を身につけることをより重視する。

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基　礎　演　習 | ０３ | 通　期 | ４単位 | 上野 勝男 |

［講義概要・学習目標］

ふだん口にしている食べ物を諸君はどのように考えているだろうか？ともすると、テレビや自動車と同じ工業製品であるかのような錯覚をもっていないだろうか？どこでもいつでも工場と原材料さえあれば製造できて、お金さえあればいつでも買える。だから、日本で作るより外国でもっと安く大量に作られるのなら、日本に農業なんていらないのでは・・・。

さて、「飽食の時代」に生まれ育った諸君はこの問題にどのように答えるだろうか？食べるという人間にとって根元的な問題を、そうであるがゆえにかえって満腹のあとのぼんやりとした意識の中でしか考えていないのではないだろうか？テレビをつうじて知る「飢えた世界」の存在なんて自分の生活には関係ないのか、緑の大地、美しい水田（田園）風景はたまさかの観光だけのものであって、退屈な生活のシンボルにすぎないのだろうか？

以上のような問題を、テキストをじっくりと読みながら、みんなでさまざまな角度から検討し議論しあうという「演習」形式によって考えていきます。演習は初めてでしょうから、最初は「やり方」を確実に身につけることができるようにゆっくりとすすめます。また、このなかで、大学での学び方・学生生活一般についてもアドバイスをするつもりです。

［演習計画］

演習の開始時に説明します。

［成績評価の方法］

演習はいっしょに討論し考えることが何よりも大切です。だから、出席しないことには何も始まらないのです。

［教科書］

梶井　功（著）『日本農業のゆくえ』（岩波ジュニア新書　２４４）

［参考文献］

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基　礎　演　習 | ０４ | 通　期 | ４単位 | 梅　本　哲　世 |

［演習概要・学習目標］

日本経済は、バブル崩壊後の現在、深刻な景気後退の局面にある。金融機関の破綻、会社倒産、失業などの問題が顕在化している。人々の間には将来への不安が充満して、いわば「先の見えない時代」というべき状況にある。経済学を学ぶ我々は、このような事態を正面から直視し、現代の経済事象を真剣に分析し、検討する必要があるだろう。

この演習では、我々を取り巻く経済を中心とした様々な諸現象を検討する。世界経済と多国籍企業、租税・財政・金融、家計、情報化、住宅・老人問題などの問題を、基礎的な諸概念を理解しつつ深めていきたい。１年後には、現代日本の経済問題についておおよその輪郭がつかめるようになることが目標である。

［演習計画］

【前期】
1. 先の見えない時代
2. 資本主義社会生成史
3. 高度成長から「経済大国」へ
4. 世界経済から地球経済へ
5. 多国籍企業と世界労働
6. 国際通貨と国際金融のしくみ
7. 租税と財政のしくみ
8. 現代社会と金融
9. 株式会社と企業集団
10. 家庭と家計

【後期】
1. 流通と消費者問題
2. 情報化と社会生活
3. 食品環境・エコロジー
4. 廃棄物・ゴミ
5. 生活環境と車公害
6. 過労死
7. 住宅・土地問題
8. 都市老人問題
9. 教育とは何か
10. 青年心理

［成績評価の方法］

出席を重視し、演習での態度（報告・発言など）およびレポートなどにより総合的に評価する。

［教科書］

佐々木佳代編著『都市生活の経済学（第２版）』（ミネルヴァ書房）

［参考文献］

演習中に適時指示する。

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | ０５ | 通　期 | ４単位 | 桂　昭政 |

［演習概要・学習目標］

昨今、規制緩和とか、ビッグバンとかさけばれているが、それは政府の規制よりも市場メカニズムを重視していこうとする社会の大きなうねりと密接な関係をもっている。それゆえこの基礎演習では規制緩和等の背後にある市場メカニズムの考えについて勉強をすすめていこうとおもっている。それは他ならず、経済学の中のミクロ経済学の勉強ということになるが、まずミクロ経済学の基礎部分の習熟につとめていきたいとおもっている。

［演習計画］

最初の1～2ヶ月は経済学の勉強よりも、現実の経済社会について認識を深めるようにし、そのうちに基礎経済学のミクロ経済学の勉強を行う。なおワープロ等のパソコン実習も並行といれていくつもりである。

［成績評価の方法］

出席、報告、レポートなどの総合評価

［教科書］

岩田規久男『経済学を学ぶ』（ちくま新書）
日本経済新聞社編『2020年からの警鐘』（日本経済新聞社）

［参考文献］

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | ０６ | 通　期 | ４単位 | 木　村　二　郎 |

［講義概要・学習目標］

世紀末の日本経済は、長期不況・金融システム不安・アジア経済危機など先行きが極めて不透明である。激動する世界経済の中における現代の日本経済が直面している問題の本質は何か、その問題はどのような歴史の流れの中から発生し、今後どうなっていくのか。私たちを取り巻く経済の情況を自分の頭脳でキャッチして、その問題点を理解し、解決の方向を自分なりに考えることが、自立した自由人の基本的条件であるといえよう。

この基礎演習では、第1に、テキストを輪読しながら、日本経済がかかえるさまざまな現実の具体的な問題を学習する。交替にレジメ作成・報告を行い、それに基づいて全体で討論して認識を深める。時に応じて、テキストのテーマに沿った時事問題の報告も織り込む予定である。この輪読を通じて、大学で経済学を学んでいく基本的方法を身につけ、経済を研究することの面白さを理解することを目標にする。

第2に、カレントなテーマを選択して、ディベート（討論）を班対抗で行う。このディベートでは、相手の意見に対抗して自分の見解を述べる訓練を通じて、討論する能力を養うと共に、さまざまな問題に対する認識を深めることを目標にする。

［講義計画］

時事問題報告、テキスト各章（景気・経済成長・財政・金融改革・経済摩擦・産業構造・地球環境など）の輪読、ディベートを前後期を通じて行う。なお、夏休みには最低1冊は日本経済に関する書籍を読んでレポートを提出するのが課題である。

［成績評価の方法］

出席は前提。演習に対する取り組みの積極性とレポートやテストなどを総合的に評価する。

［教科書］

日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』（1998年版）日本経済新聞社

［参考文献］

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | ０７ | 通期 | ４単位 | 熊谷　次郎 |

［講義概要・学習目標］

目的は３つ。

（１）経済と経済学の基礎的知識を身につけること。これは、経済と経済学の世界で通用する基礎文法を身につけること、と言い換えてもよい。

（２）教科書を読んで（ここでは教科書だが、一般的に言えば、与えられたドキュメント・文書類、といってよい）、その内容を文章で簡潔にまとめ、あるいは口頭で発表する力をつけること。

（３）経済学の分野は広く深ので、そのなかで自分は何を専門とするかについての方向性を得ること。

以上の目的を達成するための一つの手掛かりとして、戦後（１９４５年以後）の日本経済を中心に、現代世界の経済史を下記の教科書を中心に勉強して行く。

［講義計画］

まず教科書の内容を正確に捉えることから始める。そのため、教科書の輪読をしたり、教科書に則した報告を順番にしてもらうことになる。その上で、みんなで質疑や討議を行って、理解を深めるとともに、自ら考え、それを表現する力を養っていきたいと考えている。

パソコンを使ったワープロの初歩的な実習を１，２回試みる積もりである。

［成績評価の方法］

出席、報告、レポートによる総合評価。

［教科書］

中村隆英著『現代経済史』岩波書店、１９９５年

［参考文献］

その都度必要に応じて指示する。

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | ０８ | 通　期 | ４単位 | 芝　村　篤　樹 |
| | ０９ | 通　期 | ４単位 | |

［演習概要・学習目標］

基礎演習の学習目標は、社会科学を学ぶ大学生として最低限度必要な態度、能力、知識を養うことである。それはまず、「今」という時代に疑問や批判意識（問題意識）をもつこと、その問題意識に従って活字情報（書物）を正確に読み取り、書き言葉・話し言葉のいずれにおいても適切かつ個性的に発信する能力をつけることである。以上から演習としては、①テキストを使った講読・報告・討論、②各自の選んだテーマに基づく報告・討論を行う。積極的に演習に参加する意欲がなければ、この時間はほとんど意味をなさない。

［演習計画］

①社会科学の基礎の講義、②テキストを使用した講読・報告・討論、③各自の選んだテーマに基づく報告・討論。①、②は前期、③は後期に実施し、適時レポートを課す。

［成績評価の方法］

出席・報告・討論とレポート（年３回程度）によって判定する。

［教科書］

演習の初めに指示する。

［参考文献］

その都度指示する。

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | １０ | 通　　期 | ４単位 | 吉　見　研　次 |

**［演習概要・学習目標］**

この演習は、主に受講生が分担して下記テキストの紹介報告を行なうという方式で運営される。内容的には、株式会社の基本的なしくみを理解したうえで、現代日本の巨大株式会社の構造と問題点を把握することが、主たる学習目標となる。

演習形式の授業においては、口頭発表等、学生諸君自身の能動的な授業参加が不可欠である。小論文やレポートを書く作業も課すので、積極的に取り組んでもらいたい。

**［演習計画］**

＜前期＞毎回、数名の学生にテキストの内容を順次紹介報告してもらう。小論文の書き方を指導したうえで、実際に書く作業をしてもらうこともある。なお、夏休み中の課題として、複数の文献資料を読んだうえでレポートを書いてもらう予定である。

＜後期＞毎回、数名の学生に各自のレポートを口頭で報告してもらう。余裕があれば討論の時間等も設けたいと考えている。

**［成績評価の方法］**

出席状況、報告やレポートの内容等を総合的に判断して評価する。

**［参考文献］**

授業時間中に適宜紹介する。

**［教科書］**

奥村　宏『２１世紀の企業像』（岩波書店）

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　　目　　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | １１<br>１２ | 通　　期<br>通　　期 | ４単位<br>４単位 | 鈴　木　　健 |

**［演習概要・学習目標］**

日本と世界の政治・経済現象のなかから、演習参加者がもっとも関心のある政治・経済問題をとりあげ、それについて報告し、報告にもとづいて討論し、報告者の見解と他の演習参加者との見解の相違を明らかにしつつ、事柄の「真相」に迫る思考の訓練を行う。

素材は日々に生起する政治・経済現象であるから、演習参加者は最低限毎日の新聞をよく読んでおかなければならない。新聞を読み、主要な出来事について自分の見解をもつ努力をしておかねばならない。

**［演習計画］**

・第１回、演習の進め方と年間計画の解説
・第２回、演習における報告の「模範演技」①
・第３回、演習における報告の「模範演技」②
・第４回
　～　演習参加者による報告と討論
・第24回

**［成績評価の方法］**

次の三つの評価の総合によって決定する。
・第一、出席日数。２／３以上の出席が義務。
・第二、報告を担当するさいの準備の中身、報告の内容、討論への参加の仕方。
・第三、他の報告者の報告を素材とする討論への参加の仕方。

**［参考文献］**

・その都度指示する。

**［教科書］**

/使用しない。

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | １３ | 通　期 | ４単位 | 滝　田　和　夫 |

［演習概要・学習目標］
経済学とは金儲けのノウ・ハウを教えてくれるものかと思って経済学部に入ったのに、ちっとも教えてくれない。どうやら、先生は教えてくれないのではなく、もともと知らないらしい。先生自身、金持ちそうにはとても見えないから・・・。
経済学部に入って、こんな発見に軽い衝撃を感じる学生諸君も少なくないことだろう。確かに、経済学は利殖の方法などを教える学問ではない。しかし、実は利殖法の方は経済理論を結構利用しているのである。そこで、利殖法の中でも経済理論に近い設備投資法の勉強を通じて経済理論を身につけることができないかと思ってやってみるのが、この基礎演習である。演習ではありもしない大金の計算のために、パソコンを算盤代わりに利用するが、事前のパソコンの知識は不要である。演習の目標は経済理論の基本ロジックの修得にあるが、同時にそれを通じた「読み書き算盤」能力の育成にも力点を置きたい。

［講義計画］
一応テキストに沿って進む。パソコンを利用する少人数の演習なので、宿題やレポートを通じてできるだけ双方向のものとしたい。

［成績評価の方法］
出席・レポート・小テストの総合評価となるであろう。

［教科書］
千住鎮雄／伏見多美雄著　『設備投資計画法』　日科技連出版社

［参考文献］
柴川林也著　『新版　投資決定論』　同文館

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | 14 | 通　期 | 4単位 | 竹　歳　一　紀 |

［講義概要・学習目標］

経済と経済学の基礎を学ぶ出発点として、日本経済に関する基本的なことがらを学習していく。戦後の日本経済がたどってきた足跡を理解し、現在抱えている問題を認識することは、これからの日本を考えていくうえでの前提条件であろう。
何よりも、現実の経済問題への関心を持ってもらいたい。合わせて、これから学んでいく経済学の基礎知識の習得を目標とする。

［講義計画］

テキストを読んでの報告を中心に進めるが、トピックに合わせて、新聞記事の説明やビデオを見るといったことも、適宜行っていく。
また、パソコンの基本的な使い方（特にインターネット）についても、実習を行う。

［成績評価の方法］

小テスト（前後期各2回程度予定）、レポート（夏休み）、テキストの報告、出席状況から総合的に評価する。

［教科書］

浅子和美・篠原総一（編）『入門・日本経済』有斐閣

［参考文献］

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | １５ | 通　期 | ４単位 | 竹　原　憲　雄 |

［演習概要・学習目標］
戦後日本経済の展開過程をたどってみる。低迷する日本経済の現状を戦後の大きな流れの中でとらえてみようとするためである。それはまた今後の日本経済について的確な洞察を得るためでもある。ここから経済問題の理解の仕方を学んでもらいたい。
毎回報告者のレジュメをもとに進める。

［演習計画］
テキストを中心に内容の分担報告と討論。

［成績評価の方法］
出席状況、分担部分の報告および提出レポートによって評価する。

［参考文献］
演習のなかで紹介する。

［教科書］
小島　恒久（著）『戦後日本経済の流れ』（河出書房新社）

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | １６ | 通期 | ４単位 | 津田　和夫 |

［講義概要・学習目標］
テーマ：我が国の金融・財政の研究

日本経済の現況を見つめながら、まず経済の基本や歴史を学ぶ。
そして、その過程で日常生活において遭遇する様々な経済問題について疑問点や問題点を解きほぐし、理解を深める訓練をする。
夏休みに自分の関心あるテーマを絞り、短い報告を書いてもらい、それに従って報告をしてもらう。自分の意見の提示、活発な討論は高く評価する。

９７年度の例では、米あまり、総会屋利益供与事件、公共事業、行政改革シテイーバンクの人気、外資系企業、不良債権、国際化、国際金融会議、中国の金融改革、台湾の経済事情、学生生活調査など幅広いテーマが発表された。

［講義計画］
「前期」
教科書を読む。 新聞記事などにより時事問題も研究する。

「後期」
各自のテーマの発表、討論を行う。

［成績評価の方法］
出席状況　　討論参加状況　期末小論文提出

［参考文献］
「現代銀行論入門」（経済法令研究会）津田和夫著　１９９７年１月 第２刷
＜銀行論の教科書＞

［教科書］
日経文庫
ベーシツク 「日本経済入門」　（日本経済新聞社）
１９９７年３月、　１２刷 、または最新刊

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基　礎　演　習 | １７ | 通　期 | ４単位 | 津　田　直　則 |

［講義概要・学習目標］

企業とは何かを経済学的、経営学的に学習する。企業の研究を通じて経済学との接点を深めていくのが授業の目的。経済学的に問題にするのは以下の点。
1）企業と経営（経済原論、経済発展論の分野）
2）労働問題（労働経済論の分野）
3）業界と市場（産業組織論の分野）
4）投資と成長（経済成長論、経済発展論の分野）
5）規制と政府（産業政策、経済政策の分野）
上の講義概要にそって解説するが、受講生は自分の好きな企業を１社選んでその企業の特徴や発展できた理由などを発表する。また、自分の発表した企業についてのレポートを最後にまとめなければならない。発表の仕方、レポートの書き方、参考文献の探し方などを学習する。

［講義計画］

講義と発表の組み合わせは様子を見ながら決める。授業の中で、ワープロの講習を２回、図書館での文献の検索の講習を１回含める。

［成績評価の方法］

1）出席率　2）発表　3）レポート

［参考文献］

企業に関する文献をコピーして配布する。

［教科書］

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | １８ | 通　期 | ４単位 | 野　田　知　彦 |

［演習概要・学習目標］

この演習の目的は、経済学の基本的な考え方を身につけることである。具体的にはミクロ経済学とマクロ経済学の初歩を学ぶ。なお、経済学の初歩を身につけるには系統的な履修が必要となるので、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位の取得も困難になることは言うまでもない。

［演習計画］

授業の最初に指示する。

［成績評価の方法］

レポートと報告

［参考文献］

［教科書］

ライフサイクルの経済学（ちくま新書）
橋木俊詔著

<98E生対象>

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | 19 | 通期 | 4単位 | 濵田博男 |

**[演習概要・学習目標]**

現代資本主義社会の重要な経済単位である企業（＝会社）の仕組みや活動の変遷を勉強することをつうじて、現実の日本経済や世界経済の動きについての理解と関心を深めるようにしたいと考えています。

ゼミナールでは、テキストの各章を各自分担して報告・討論して貰います。そのさい報告者には簡単なレジュメ（内容の要点と意見をまとめたもの）を用意して貰います。

そのほか、そのときどきの新聞記事などを材料にして、重要と思われる問題について解説することも予定しています。

**[演習計画]**

〈前期〉

1．プロローグ
2．戦後改革－日本的経営のみなもと－
3．混乱から復興へ
4．産業政策の果たした役割
5．財閥から企業集団へ
6．間接金融方式の定着
7．産業構造の変化とリストラクチャリング

〈後期〉

8．技術革新
9．中小企業のダイナミズム
10．日本的労使関係の成立
11．マーケティングの導入と流通革新
12．経営理念
13．戦後の総決算としての円高構造調整
14．グローバル時代へ

**[成績評価の方法]**

出席状況ならびにゼミナールでの報告・討論への積極的な姿勢を重視します。年2回のテストの成績とあわせて総合的に評価します。

**[教科書]**

下川浩一（著）『日本の企業発展史』（講談社／現代新書）

**[参考文献]**

<98E生対象>

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | 20 | 通期 | 4単位 | 蕗谷硯児 |

**[演習概要・学習目標]**

20世紀最大の経済学者であるJ.M.ケインズの生涯とその経済学を学習することによって「経済学とは何か」「20世紀の経済・社会問題とは何であったか」について考察することを目標とする。最初にケインズの育った19世紀末～20世紀初めのイギリス社会の状況とケインズのケンブリッジ大のエリート経済学者への道をふりかえり，第1次大戦後のイギリスの衰退と大不況の中でいわゆる「ケインズ経済学」が形成されてゆく過程を学習する。次に「ケインズ経済学」の核心を学習し，第2次大戦後のケインズ経済学の発展とマネタリズムや新古典派総合など現代経済学の動向とを対比させるなかで改めてケインズ経済学の意義を再考する。

**[演習計画]**

ほぼテキストの順序によって演習をすすめるが，各時間毎に発表者をきめておき，発表を中心としたディスカッションによって理解を深める。

発表者はテキストの内容のみならず，ケインズの育ったイギリスの社会，経済，20世紀の経済問題（2次にわたる大戦と大不況，第2次大戦後の経済発展）等について広く他の参考文献を学習し，レジメを配布しなければならない。また発表者だけでなく全員が積極的に討論に参加すること。

**[成績評価の方法]** 演習における出席状況と発表の実績を重視する。随時小テストを行い，またリポート提出等を総合的に勘案して評価を行う。

**[参考文献]**

その都度指示する。

**[教科書]**

根井雅弘著『ケインズを学ぶ－経済学とは何か』講談社現代新書（1996年）

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | ２１<br>２２ | 通　期<br>通　期 | ４単位<br>４単位 | 藤　岡　純　一 |

［講義概要・学習目標］

ごみとは何だろう？　生ゴミやプラスチックのような毎週定期的に分別してゴミ収集車に持っていってもらう家庭のごみだけがごみだろうか？　これだけではない。二酸化炭素、放射性廃棄物、建設廃材などの産業廃棄物もごみである。
現在は、自動車から、原子力発電所から、工場から、そして家庭から、大量のごみが出ている。いわばごみの時代である。大量生産され、大量消費されたものが、ごみとして出ている。
これらのごみが、今や、地球を蝕んでいる。地球の温暖化、放射性廃棄物による放射能汚染の可能性、山中への廃棄物の不法投棄、川や海の汚染など、枚挙の暇がない。
君たちは、これからごみ問題とどのように付き合っていくのか？　「ごみゼロ社会」は可能なのであろうか？　いっしょに考えてみよう。

［講義計画］

演習なので、受講生に順番にテキストの内容を紹介してもらい、それに基づいて討論する。何よりも疑問を持つことから始めよう。
テキストの内容は以下の通り。

プロローグ――20億年前のごみ戦争
1．ごみから地球環境を考える
2．ごみから社会・経済を考える
3．ごみ処理で都市が救えるか
4．リサイクルで地球が救えるか
5．生き方と社会を変えよう
エピローグ――ベジタリアンの逆襲

２冊目のテキストは授業中に提示する。

［成績評価の方法］

平常点（出席と報告）およびレポート

［参考文献］

寄本勝美『ごみとリサイクル』岩波新書

［教科書］

八太昭道『ごみから地球を考える』岩波ジュニア親書

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | ２　３ | 通　期 | ４単位 | 前　田　治　郎 |

［講義概要・学習目標］
「危機」や「恐慌」という言葉が使われるほど現在の日本経済が曲がり角にあること、しかもそれを打開する方向を見定められないでいること、このことは毎日の新聞の見出しを眺めるだけで直感することができる。このような時期にこそ、今問題になっていることの本質は何か、それをどのような視角から考えればよいのかについて、各人が自分の意見を持つことが求められる。この演習では、各人が設定したテーマを１年間持続的に追いかけることを通じて、上記の能力を養うことを目標とする。

［講義計画］
1．開講時に，各人が考えてきたテーマを出し合った上で，３ないし４つ程度の共通テーマに絞り込み，グループ分けをする。2．毎回，新聞記事その他を素材として，各グループからテーマにそくした報告を受け，討論をする。3　この作業を通じて，各人が得意とする分野をつくるとともに，１年後には諸問題を整理・分析する観点を創り上げ、最後にレポートを作成する。

［成績評価の方法］
出席などの平常評価と最後に作成するレポートを総合判断する。

［参考文献］

［教科書］

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | ２４ | 通　期 | ４単位 | 三　邉　信　夫 |

**［演習概要・学習目標］**

本講義では、経済学に関する基本的な考え方を説明する。経営学が個別企業を考察対象としているのに対して、経済学は財の価格や国民所得の決定、国民の生活水準など経済全体を問題としている。これらのことを興味深く説明するために、16世紀より18世紀を支配した重商主義や重農主義より、アダム・スミスにはじまる古典学派経済学、マルクス経済学を経て、限界効用学派および近代経済学に至る経済学の発展プロセスを中心に解説する。経済学の展開は、その研究対象である資本主義経済の発展にしたがって、それぞれの国の発展過程にしたがって精緻化されてきた。

現代的問題、例えば、国民生活水準の重視、規制緩和、所得分配率の問題、人口問題、福祉政策のあり方等々の問題も、実は、経済学の長い歴史のうちに議論を重ねてきた問題で、いまに始まったことでないことがわかる。われわれはこれらの議論を参考にして、自分の意見を決めたい。

**［演習計画］**

〈前期〉１）重商主義。個人利益と国家利益。貴金属の蓄積。
２）前古典派経済学。イギリスおよびフランスにおける経済学。
３）重農主義。ケネーの「経済表」。
４）アダム・スミスの先駆者。価値と効用、平等主義批判、正貨流出入機構。

〈後期〉５）アダム・スミス「国富論」。見えざる手と自由放任論、生産的労働。
６）R. マルサスの「人口論」。人口と食糧、現代の人口問題。
７）D. リカァドオ「経済学原理」、労働価値説、資本蓄積と利潤率低下、比較生産費説。
８）セイの販路説。
9) アメリカにおける古典派経済学
10) カール・マルクス「資本論」
11) オーストリー学派、限界革命

**［成績評価の方法］**

出席、試験、レポート

**［参考文献］**

**［教科書］**

三邉信夫（著）『経済学説史概論』（大阪市立大学経済学会）

＜９８Ｅ生対象＞

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | ２５ | 通　期 | ４単位 | モグベル・ザファル |

**［演習概要・学習目標］**

「貿易と経済」をテーマに今日の世界経済や経済学の基礎について学習する。

**［演習計画］**

＜前半＞

新聞の切り抜きなどを読みながら、最近の世界や日本の貿易動向について検討する。

＜後半＞

「通商白書」を読みながら、貿易と経済動向をより詳しく検討する。

**［成績評価の方法］**

出席・小試験・授業中の報告をベースに総合的に判断する。

**［参考文献］**

**［教科書］**

平成十年版　「通商白書、総論」　通商産業省編

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | ２６ | 通期 | ４単位 | 望月和彦 |

［講義概要・学習目標］

テーマ：「世の中は左様然らば御尤もさうでござるかしかと存ぜぬ」をぶっ飛ばす

そもそも学校というところは、生き方の定まらない人間たちが生き方を求めて集まってくるところと見ることができる。「学校なんて何の役に立つのか」と言いながら、ほとんどの若者は高校に行き、多くの人はさらに大学に進学する。なんのかのといっても、とりあえず学歴だけは押さえておこうというのである。つまり生き方がわからないものだから、学歴にすがってみるのである。てなわけで大学まで来てみたものの、世の中をどう渡っていけばいいかなんて誰も教えてくれるわけではない。でもここは大学である、最高学府である。これ以上進学することはできない。つまりここで皆さんは、結論を出さねばならないのだ！さてどうする？とどのつまりは、自分の人生は自分で考えて自分で決めなければならないのである。いや困った！ということで、皆さんに自分で物事を考える訓練をしてみようというのが、この基礎演習の目的である。この基礎演習では、論理的な思考の仕方を学ぶ。できるだけ具体的に、社会問題や倫理上の問題を徹底的に論理的に考えることによって、論理の構造と、その根底にある世界観や価値観を理解する。そこで自分なりのものの見方、考え方が身に付けば、このゼミは大成功ということになる。その結果、何事にも一家言をもつ「カワイクナイ」人間ができるかも知れないが…、まっ、いいか！？

［講義計画］

この基礎演習は、以下のようなやり方で行う。

◆テキストの輪読その一

テキスト：竹内靖雄　『経済倫理学のすすめ』　中公新書

このテキストを熟読玩味し、筆者の問いに答えることで、合理的思考を養う。

◆テキストの輪読その二

テキスト：高橋伸顕　『数字に問う日本の豊かさ』　中公新書

とかく現実より理論が先行しがちなこの時代に、現実を理解することは容易なことではない。そこで身近な経済の話題から日本社会の抱える問題について理解を深めていく。

◆新聞を読む

これは、社会科学の勉強に必要な社会に関する知識を豊かにするとともに、新聞やマスコミに対して批判的な見方を養う目的を持っている。

◆ディベート（討論）

これは、今日の日本社会がどんな問題を抱えているかを理解するとともに、自分の意見を論理的に組み立て、発表できる能力を身につけることを目的としている。

［成績評価の方法］

出席、発表、課題提出によって評価する。

［教科書］

竹内靖雄　『経済倫理学のすすめ』　中公新書
高橋伸顕　『数字に問う日本の豊かさ』　中公新書

［参考文献］

文藝春秋編『日本の論点』シリーズ　文藝春秋社
鷲田小彌太『哲学がわかる事典』　日本実業出版社
鷲田小彌太『現代思想がわかる事典』　日本実業出版社
よみうりテレビ編　『紳助のサルでもわかるニュース』　実業之日本社
猪瀬直樹　『日本国の研究』　文藝春秋社
浅羽通明　『大学で何を学ぶか』　幻冬舎

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 経済学基礎理論Ａ<br>（旧経済学基礎講義） | ０１ | 通　期 | ４単位 | 大日康史 |

［講義概要・学習目標］

このクラスは経済学部の諸君が最初に受ける経済学の授業であるという点を重視し、「経済学とは何か」から入り、あまり理論的な話に終始するのではなく、「私たちが生きているこの現実の日本の経済の理解に経済学は役立つのか？」、「経済学は私たちを幸せにしてくれるのか？」という視点から日本経済のシステムの経済合理性を検証しながら講義を展開していく。あまり先を急ぐのではなく、一つ一つのテーマを掘り下げることに重点を置いている。最終的な目標はもちろん、受講生がこの講義によって知的好奇心が刺激され、経済学をもっと学びたいという気持ちを持ってもらうことである。

［講義計画］

全講義回数を２６回として
１回　　ガイダンス
２－７回　　経済学のアウトライン（社会科学における経済学の位置づけ、経済学の思考方法、視点）
８－１７回　　家計から見た日本経済（労働、結婚、出産、育児、介護・・・）
１８－２３回　　企業から見たマクロ経済学（モノ、カネ、企業の範囲）

［成績評価の方法］

評価は毎授業での発言と４－６回のレポート（あるいは抜打ち試験）のみで行う。配点は前者が６０％、後者が４０％である。つまりレポートをすべて出して満点であっても発言がなければ合格しない。逆に発言活発であると１、２回のレポートの出し忘れ、失敗は簡単に挽回できる。不正レポートは一回で不合格とする。出席点はつけないが（出席だけで発言がなければ点数がつかない）、欠席すれば減点する。定期試験は行わない。

［教科書］

篠原・浅子「入門・日本経済論」有斐閣

［参考文献］

ホール＆テーラー「マクロ経済学」多賀出版

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 経済学基礎理論Ａ<br>（旧経済学基礎講義） | ０２ | 通　期 | ４単位 | 滝　田　和　夫 |

［講義概要・学習目標］

この講義では経済理論のＡＢＣを勉強する。経済理論には様々な学派のものがある。なかでも今日の日本で支配的なものは、一つが近代経済学と呼ばれている新古典派とケインズ派の経済学であり、もう一つがマルクス経済学である。両者は、その問題設定、論理、分析帰結の点で根本的に異なる二つの経済学である。

経済理論へのガイダンスであるこの講義においては、これら二つの経済学の内容をともに概観できればよいのだが、実際には時間の制約があってできない。そこで、この講義では主流派の経済学であるいわゆる近代経済学（ミクロ経済学、マクロ経済学）について、できる限りやさしく解説していきたい。

［講義計画］

<前期>

ミクロ経済学入門

1．家計の商品需要と要素供給の決定
2．企業の商品供給と要素需要の決定
3．市場均衡

<後期>

マクロ経済学入門

1．国民所得の決定
2．貨幣と金融
3．所得分析と貨幣分析の統合

［成績評価の方法］

年数回の小テストによる。小テストの回数および出席をとるかどうかは受講者数をみて決める。

［教科書］

荒憲治郎・福岡正夫編　『経済学』　有斐閣

［参考文献］

P．サムエルソン／W．ノードハウス著　都留重人訳『サムエルソン経済学』上・下　岩波書店

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 経済学基礎理論　Ａ<br>（旧経済学基礎講義） | ０３ | 通　期 | ４単位 | 津　田　直　則 |

［講義概要・学習目標］

日本経済の発展の概略について理解することと、経済理論の基礎を身につけることを目的とする。日本経済に関するテキストにそって講義を進めるが、経済学の基礎的な知識を別に講義資料としてそのつど配布する。

［講義計画］

テキストの内容は以下の通り。

1．日本型経済システム
2．日本経済の軌跡
3．会社主義の魔力
4．日本産業の特質
5．裸の王様ニッポン

配布資料の項目は以下の通り。

1．需要曲線と供給曲線
2．所得のマクロ概念とミクロ概念
3．経済の循環と成長
4．競争と独占
5．為替相場と国際収支
6．規制緩和
7．日米企業の比較
8．長期経済指標
9．社会科学の方法

［成績評価の方法］

前期、後期のテスト。出席率を配慮する。

［教科書］

日本経済新聞社編　『日本経済の新課題』

［参考文献］

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 経済学基礎理論Ａ　（旧経済学基礎講義） | ０４ | 通期 | ４単位 | 望月和彦 |

［講義概要・学習目標］

「知恵を得ることは金にまさり、分別を得ることは銀よりも望ましい」　（箴言一六・一六）

古来より、知恵や分別はお金よりも価値のあるものだとされています。授業料を払って大学に勉強しに来た皆さんは、この古人の教えに従っているといえましょう。授業料の対価として私が皆さんに教える知識とは、近代経済学という学問の基礎知識であり、分別とは、近代経済学の考え方である合理的な思考法です。経済学自体は皆さんにとって初めての学問・知識になるでしょうが、私は皆さんに単なる知識の切り売りをするのではなく、トータルな考え方を売っていきたいと思っています。これこそが、私が皆さんに与えることのできる付加価値であるからです。

この講義は、近代経済学の考え方を身につけるトレーニングの場であると思って下さい。トレーニングですから、出席することが必須条件となります。特に、この講義では特定の教科書は使わず、プリント中心で進めていきますので、休まずひるまず、しっかり授業料分を取り戻して下さい。

［講義計画］

【前期】
1．経済学とはどんな学問か
2．マクロ経済学とは
3．国民所得の意味
4．国民所得決定モデル
5．乗数理論
6．拡張された国民所得決定モデル
7．投資の理論～財市場の均衡～ＩＳ曲線
8．貨幣の理論～貨幣市場の均衡～ＬＭ曲線
9．財市場・貨幣市場の同時均衡　ＩＳ－ＬＭ分析

【後期】
10．総需要・総供給関数の導入　インフレと不況
11．財政政策・金融政策の有効性
12．ミクロ経済学とは
13．需要と供給の世界～市場均衡
14．需要と供給の世界の応用～課税と補助金
15．独占の理論
16．経済学の考え方

［成績評価の方法］

前期・後期の中間試験、期末試験の結果、および課題提出状況によって評価する。

［教科書］

高橋伸顕　『数字に問う日本の豊かさ』中公新書
岩田規久男　『経済学を学ぶ』　ちくま新書
（いずれもレポート用課題図書）

［参考文献］

伊藤元重　『入門経済学』　日本評論社
Ｎ・Ｇ・マンキュー　足立他訳　『マクロ経済学Ｉ』　東洋経済新報社
Ｊ・スティグリッツ　薮下ほか訳　『入門経済学』『マクロ経済学』『ミクロ経済学』　いずれも東洋経済新報社
浅子・加納・倉沢　『マクロ経済学』　新世社
石井・西條・塩澤　『入門・ミクロ経済学』　有斐閣
金森久雄ほか編　『有斐閣　経済学事典』　第三版　有斐閣
青木雄二　『青木雄二のゼニと資本論』　大和書房

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 経済学基礎理論Ａ<br>（旧経済学基礎講義） | ０５ | 通　期 | ４単位 | 矢根　真二 |

［講義概要・学習目標］

自動販売機でウーロン茶を買うといった日常茶飯事の行為は，経済学の基本的な考え方を応用できる典型的な例である。ウーロン茶の満足感が投入したコインの費用を上回るので，ウーロン茶を買っちゃうというインセンティブが働くのである。本学に入学したのも講義をさぼるのも，デートに出かけるのもアルバイトに精を出すのも，同じように分析できる。講義の第１目標は，複雑で多様な現象を簡単な１つの見方で捉えていこうとする**現代経済学の基本的な考え方**になじむことである。

現代経済学は，書店に行けば分かるように，**ミクロ経済学**と**マクロ経済学**から成り，複雑な現象を単純化して理解する際に厳密な推論を利用する。そこで登場するのが耳慣れない概念や記号・数式のオンパレードで，これで経済学嫌いになる人も少なくない。しかし**ミクロとマクロの道具箱**は，日常の新聞・雑誌の記事のベースであるだけでなく，産業組織論から国際経済学に至る応用経済学の基礎知識であるため，本学でも**経済原論ＩＡ**（Ｂのマルクス経済学ではない）というＪＡＲＯに訴えられそうな名称の講義で，詳しい内容を再度学習するようになっている。実際，公務員試験等で問われる経済学の基本的知識とはこの部分が中心である。したがって第２の目標は，**原論ＩＡ**にスムースに進めるよう，この道具箱の基本的な使い方に慣れることであり，具体的な学習法としては公務員受験用問題集の一部にトライする。

［講義計画］

Ｐａｒｔ Ｉ　現代経済学を学ぶために
(1)経済学の基本的な考え方：インセンティブは人を動かす
(2)マス・ブレイク１　微分：スピード違反と限界分析
(3)経済分析の対象：市場経済とは？
(4)マス・ブレイク２　連立方程式：アキレスは亀に追いつく
(5)現代経済学への道程：コウモリ？誕生のヒストリー

Ｐａｒｔ II　ミクロ経済学入門
(1)需要と供給の世界１：いろいろな市場とシフト
(2)消費者行動と需要曲線：右下がりの需要曲線のながーい説明
(3)生産者行動と供給曲線：右上がりの供給曲線のながーい説明
(4)市場分析の便利な道具箱：一般均衡，長期・短期，弾力性
(5)需要と供給の世界2：規制・社会問題の分析
(6)完全競争と市場の失敗：この世に万能薬はない
(7)独占と政府の失敗：政治家もお役人も同じ人間

Ｐａｒｔ III　マクロ経済学漏入門
(1)一国経済の尺度：国民所得と物価
(2)消費関数：消費と貯蓄
(3)有効需要の理論と乗数理論：４５度線分析　（以下略）

［成績評価の方法］

前期・後期試験の合計点に基づく予定

［教科書］

・岩田規久男『経済学を学ぶ』ちくま親書
・東京アカデミー『公務員試験受験問題集：オープンセサミシリーズ４　経済学』七賢出版

［参考文献］

単位取得のために最低限必要な数学は，中学校で学習した「２本の直線の交経済学では初歩的な微分の概念がよく使われる。記号や数学アレルギーが強くて不安な場合には，図書館等で下記の文献を一読しておくと，専門書の多くが理解できるようになるので非常に有益である。第１・２章は経済学の基礎となる関数や連立方程式の解き方が，３・４章は経済学で頻繁に使われる微分の初歩的な例が，すべて丁寧な解答付きでコンパクトに解説されている。

・ドウリング『例題で学ぶ：入門・経済数学　［上］』マグロウヒル

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 経済学基礎理論B<br>（旧経済学基礎講義） | 01 | 通　期 | 4単位 | 上野　勝男 |

［講義概要・学習目標］

日本経済が大きな不況にあえいでいるときに、諸君は経済学を学びはじめるわけです。科学技術がこれだけ発展した現代に、多種多様な商品があふれかえっているのに、なぜ倒産や破産、失業が生じ、個人の生活は荒波にもまれる小さな木の葉のように浮沈にさらされるのだろうか。不況のない、失業のない、安心して暮らせる経済はどうしたら可能か。こうした切実な問題に対する答えを求めようとして入学したことでしょう。しかし、学問には「サルでもわかる」とか、「玄関あけたら」すぐ食べられるご飯のような安直な解答はありません。もしそれがあるならば、そもそも経済に問題もなく、諸君も苦労して大学へ行く必要もないでしょう。経済の様々な問題・矛盾を解明することは、山登りと似ています。経済の構造全体と変化の行方を一望のもとにとらえるためには、山でいえば頂上の峰をきわめなければなりません。このためには、ふもとから一歩一歩着実に登っていかなければなりません。ふもとからの着実なあゆみは経済学でいえば、私たちの生きる資本主義のもっとも基礎的な仕組みを、もっとも基礎的で重要な概念をしっかりと理解し、身につけることです。この講義は「ふもと」からの一歩のためのものです。基礎的な概念についての解説を中心にしますが、どこを登っているのかわからなくならないために、現代経済のトピックスも随時とりあげていく予定です。

［講義計画］

教科書（テキスト）にそってすすめます。同時に、しばしば補足のためのプリントも配布しますので要注意です。

［成績評価の方法］

山登りは、少しつらくまた退屈かもしれないが、一歩ずつ登るというプロセスが大事で楽しいものなのです。だから、講義への出席を重視します。そして、もちろん試験をします。だから成績は、出席と試験の総合評価とします。

［教科書］

川上則道　著「『資本論』の教室－きっちりわかる経済学の基礎－」（新日本出版社）

［参考文献］

| 科　目　名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担　当　者 |
|---|---|---|---|---|
| 経済学基礎理論B<br>（旧経済学基礎講義） | 02 | 通期 | 4単位 | 大澤健 |

［講義概要・学習目標］

私たちが現在暮らしている社会は「市場経済」とか「資本主義社会」と言われています。そんな中で、私たちは「商品」、「貨幣」、「資本」という言葉を日常よく耳にし、日常的な用語として使っていますが、その言葉の意味を改めて説明してみろと言われると結構難しいものです。まして、それらが相互にどのように関係しあい、どのように運動するのかとなるとますます難しい問題になります。この講義では、このような基本的な経済学用語の意味を改めて考えながら、現在の経済社会の基本的なメカニズムと、特徴を明らかにしていきたいと考えています。

［講義計画］

【前期】　1・商品－市場の意味、市場経済の特徴
　　2・貨幣－市場をつなぐ媒介者
　　貨幣の機能、通貨システム

【後期】　3・資本－資本とは何か
　　生産過程と資本主義
　　資本主義社会の諸特徴

［成績評価の方法］

原則として試験の点数によるが、いくつかの加点要素（レポート等）を設ける。詳しい内容については、講義の初回に説明する。

［教科書］

田中菊次、他（著）『現在の経済原論』（創風社）

［参考文献］

カール・マルクス著『資本論』（新日本出版社）